

第 75 号議案

これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針の策定について

これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針を次のとおり定める。

令和 4 年 3 月 23 日

滋賀県教育委員会

---

別紙のとおり

---

---

これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針（案）

---

---

令和4年3月

滋賀県教育委員会

# 目 次

I	はじめに	
1	背景と趣旨	P 1
2	対象期間	P 2
3	これまでの県立高等学校改革の主な取組	P 2
4	現行の県立高等学校再編計画の総括	P 5
5	県立高等学校を取り巻く現状と課題	P 7
6	将来の社会の姿	P 10
7	高等学校への希望や期待	P 12
II	これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方	
1	本県教育の基本理念	P 18
2	育成すべき生徒像	P 18
3	高等学校の役割	P 18
4	魅力化の視点	P 18
5	目指す姿	P 19
6	滋賀の県立高等学校づくりのコンセプト	P 20
III	取組の方向性	
1	確かな学力の育成	P 22
2	キャリア教育の充実	P 22
3	多様な学習ニーズ等への対応	P 23
4	普通科の特色化（普通科系専門学科を含む）	P 24
5	職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化	P 27
6	定時制／通信制の役割への対応	P 28
7	生徒数減少への対応	P 28
8	I C Tの活用	P 29
9	生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成	P 30
10	持続可能な推進体制の構築	P 30
11	その他	P 31
IV	将来を見据えた整理	
1	県立高等学校と私学との関係について	P 32
2	県立高等学校の学校規模について	P 32
3	将来に向けた議論の必要性について	P 33
4	入学者選抜の在り方について	P 33
V	今後の進め方	P 34

## I はじめに

### 1 背景と趣旨

滋賀県教育委員会では、昭和23年の現行の高等学校制度発足以来70年余り、高等学校教育に対する県民の期待に応えるため、県立高等学校の整備や教育内容の充実を図るとともに、生徒のニーズや時代の要請等に応じ、これまで県立高等学校の学科改編や特色ある学科やコースの設置をはじめ、中高一貫教育校の設置、県立普通科高等学校通学区域全県一区制度導入、入学者選抜制度の改善など様々な県立高等学校改革に取り組んできた。

情報分野をはじめとする科学技術の進展や、経済のグローバル化、少子高齢化など、社会が一層大きく変化する中で、生徒の進路等に対する考え方や課題の多様化、規模の小さな学校の増加など、県立高等学校の教育環境は大きく変化してきたことから、概ね10年後を見据えて長期的かつ全県的な視野に立って県立高等学校再編の基本的な考えを示した「滋賀県立高等学校再編基本計画」および「滋賀県立高等学校再編実施計画」を平成24年12月に策定した。

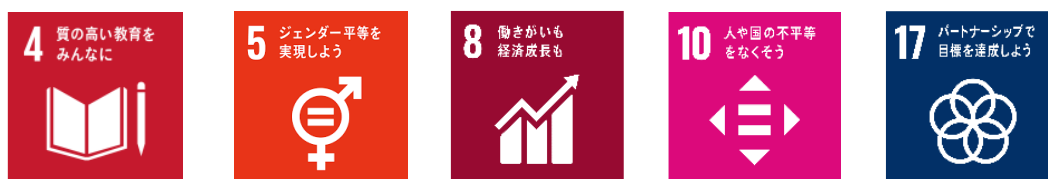
これらの計画に基づき、総合単位制の新しいタイプの学校の設置や統合による新しい学校の設置など、魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けた再編の取組を進めてきた。

しかしながら、近年、人口減少、少子高齢化の進行やグローバル化、情報化、技術革新の進展、新型コロナウイルスによる生活様式の変化など、さらに急速に社会情勢が変化してきている。

近い将来には、人口減少と高齢化の更なる進行、第4次産業革命<sup>1</sup>を通じた Society5.0<sup>2</sup>の実現、コロナ禍を経た生活様式の変化、多様な価値観が尊重される社会を目指した取組の進展などが考えられ、さらに予測できないことが起こることも十分に考えられる。

こうした社会の高度化、多様化や生徒減少等に対応した魅力と活力ある県立高等学校づくりが必要となっていることから、県教育委員会では、令和2年6月に「滋賀県立高等学校在り方検討委員会」を設置し、8回の検討委員会と現地調査を含む2回の企画作業部会での議論を経た上で、令和3年10月に、これからの県立高等学校の在り方についての答申をいただいた。また、令和3年8月には、「第25期滋賀県産業教育審議会」から社会の変化に対応したこれからの産業教育の在り方や教育環境の充実についての答申をいただいている。これらの答申を踏まえ、概ね10年から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について全県的視野で基本的な考えを示す。

なお、本県は、SDGs<sup>3</sup>を県政に取り込むことを宣言しており、SDGsの掲げる目標のうち次のものを踏まえたものとする。



<sup>1</sup> ICT(情報通信技術)の急速な発展のもと、IoT(Internet of Things)、ビッグデータ、人工知能、ロボットなど、産業や社会構造の転換を図るほどの技術革新。

<sup>2</sup> 仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。

<sup>3</sup> 「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の略称。経済、社会、環境のバランスを取りながら持続可能な社会を実現するための、全ての国に共通する2030年までの目標。

## 2 対象期間

令和4年度から令和13年度までの10年間とする。

## 3 これまでの県立高等学校改革の主な取組

### (1) 総合学科の設置（H9～）

平成9年度に国際情報高等学校の工業学科と商業学科を改編し県内最初の総合学科を設置した。その後専門学科を改編する形で総合学科の設置が進み、現在県立高等学校では7校の総合学科設置校がある。

### (2) 県立中高一貫教育校の設置（H15）

中等教育（中学校、高等学校等）の一層の多様化、複線化を推進するため、平成15年度から併設型中高一貫教育校を設置しており、6年間の特色ある教育課程のもとで、生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばす教育を展開している。

### (3) 県立普通科高等学校通学区域全県一区制度導入（H18）

多様化する生徒のニーズに対応し自分にあった県立高等学校を主体的に選択できるようにするとともに、特色ある学校づくりを一層推進することをねらいとして、平成18年度入学者選抜から、普通科高等学校の通学区域全県一区制度を導入した。

制度導入後10年が経過した平成28年度に検証を行い、全県一区制度のねらいである中学生の主体的な高等学校選択や特色ある学校づくりが進み、生徒や保護者にも受け入れられていることから、この制度を継続することとした。また、検証を進める中でいただいたアンケートの結果や聞き取り内容については、県教育委員会でしっかり受け止め、必要に応じて市町と連携を図りながら、全ての県立高等学校においてさらに魅力ある学校づくりを進めていくとしている。

### (4) 県立高等学校再編計画策定（H24）

生徒数の漸減傾向が予測されることをはじめ、特別な支援を要する児童生徒の増加傾向、さらには本県の極めて厳しい財政状況など、特別支援学校を含めた県立学校を取り巻く環境が大きく変化していく中で、今後の県立学校のあり方に関する新たな方向性を検討する必要が生じてきた。

このため、「県立学校のあり方検討委員会」に対し、今後の県立学校のあり方についての協議・検討を平成20年7月に依頼し、平成21年3月に報告を受けた。この報告のほか、滋賀県産業教育審議会からの答申等を踏まえ、平成24年12月に、滋賀県立高等学校再編基本計画および同実施計画（以下「再編計画」という。）を策定し、再編計画に基づき学科改編や学校統合等を行った。

#### (5) 国際バカロレア設置（R2）

平成 26 年度より、国際バカロレア<sup>4</sup>の導入に向けた調査・研究の研究校として虎姫高等学校を指定し、カリキュラム策定等バカロレア校認定にむけて準備（調査研究）を進め、平成 31 年 3 月に国際バカロレア認定校に認定された。

令和 2 年度の入学生が第 1 期生となり、ディプロマプログラム<sup>5</sup>生の選考後、令和 3 年 1 月よりディプロマプログラムが開始されている。

#### (6) 湖西地域の県立高等学校魅力化（R3）

湖西地域の県立高等学校の定員未充足が深刻な状況であり、学校活力の低下が懸念されることから、令和元年 10 月に湖西地域県立高等学校魅力化方針を策定した。

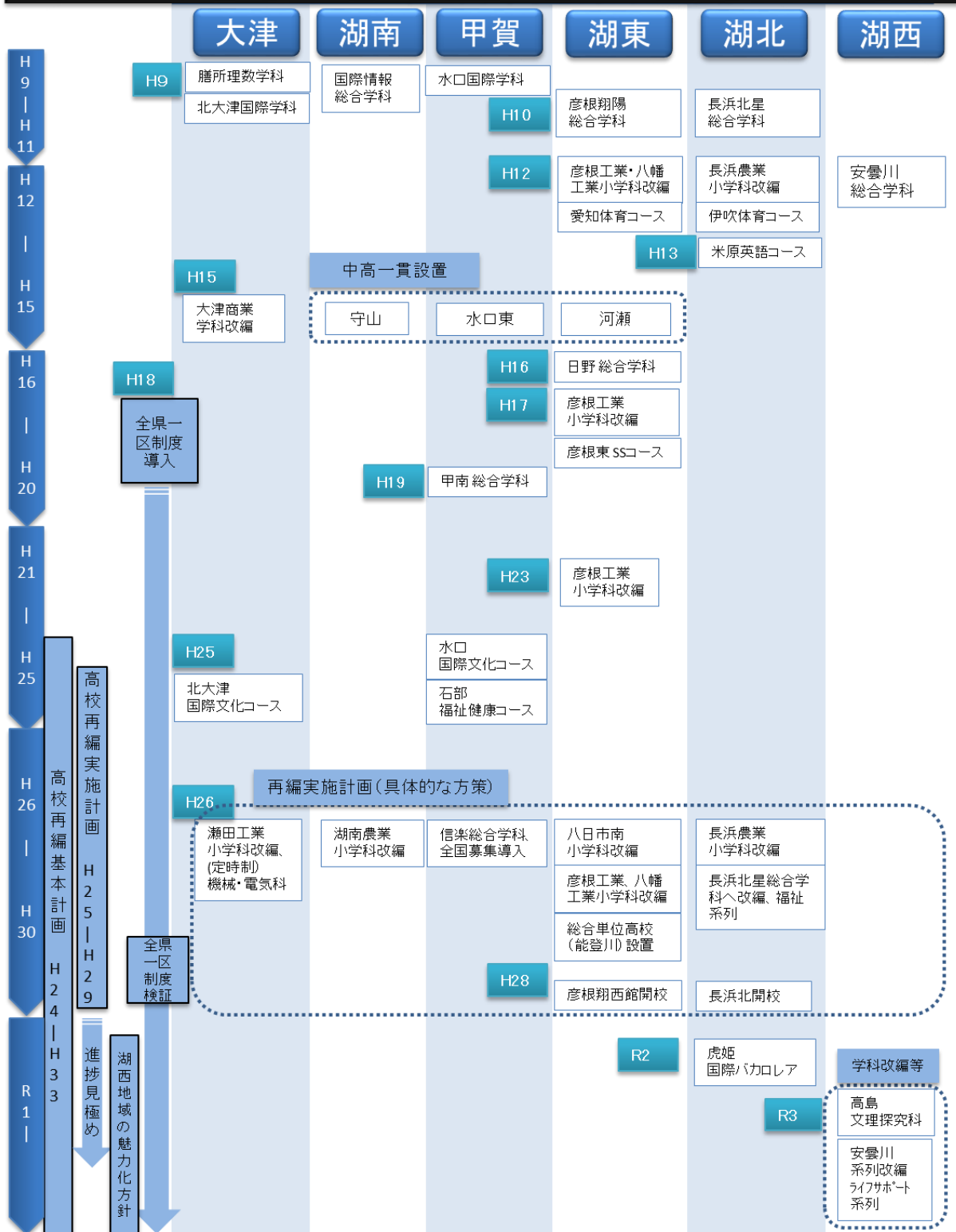
この方針に基づき、高島高等学校には、進学指導に重点を置く文理探究科を設置し、安曇川高等学校総合学科には新しい系列であるライフサポート系列を設置するとともに既存の系列をリニューアルして魅力化を図ることとした。

---

<sup>4</sup> 国際バカロレア機構が実施する国際的な教育プログラム。多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としている。

<sup>5</sup> 国際バカロレアのプログラムのうち 16 歳から 19 歳を対象としたプログラム。所定のカリキュラムを 2 年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）を取得可能。

# これまでの県立高等学校改革の推移 ※主な取組



## 4 現行の県立高等学校再編計画の総括

### (1) 学校統合

平成24年12月に再編計画を策定し、基本計画の計画期間を概ね10年として魅力と活力ある県立高等学校づくりを実施してきた。標準とする学校規模を1学年当たり概ね6学級から8学級とし、地域ごとの生徒数の推移を見据えつつ、標準を下回る規模の学校が多くを占める地域において県立高等学校の統合を行い地域全体の学校活力の維持向上を図った。

統合により開校した彦根翔西館高等学校は、「探究（普通）系列」「スポーツ科学系列」「家庭科学系列」「会計ビジネス系列」「情報ビジネス系列」の5つの系列を持つ総合学科の高等学校として、開校以来、県内の広い範囲から入学者を集めている。また、同じく長浜北高等学校は、8割以上の生徒が部活動に加入し活動するとともに、卒業生の約7割が大学に進学する湖北地域の中核的普通科高等学校となっている。学校統合により、子どもたちの社会性が涵養できるとともに、部活動の活性化、充実を図ることができた。

### (2) 多様な学習ニーズへの対応

新しいタイプの学校として、生徒の多様な学習ニーズに対応するため、能登川高等学校を全日制・定時制併置の総合単位制高等学校に改編した。定時制昼間部では、中学校で不登校などの経験のある生徒が多いものの、始業時間が遅いことや少人数授業の実施により不登校であった生徒も登校し卒業できているといった成果が上がっている。

その他、再編の具体的な方策に記載のあった、「地域に根ざした学校づくり（信楽高等学校の改編）」「職業系専門学科の改編等」「総合学科の充実（長浜北星高等学校総合学科に福祉系列を設置）」「定時制課程の見直し」については、再編のねらいを一定達成できた。

### (3) 全ての県立高等学校の魅力ある学校づくり

また再編計画では、上記の再編の他に、「全ての高等学校においてそれぞれの教育目標等に応じた魅力ある学校づくりに取り組みます」としており、この間、全県一区制度のもとで、全ての県立高等学校において、国や県の研究指定も活用しながら、魅力と活力ある県立高等学校づくりに取り組んだ。

令和2年1月に実施した県立高等学校の校長対象の調査では、92%の学校が、魅力と活力ある学校づくりが進んだと回答している。「地域との連携」や「授業の工夫」、「大学や企業との連携」が進んだと回答した県立高等学校が多く、地元市町や商工会との連携協定を結び、就業体験等に取り組んでいる県立高等学校もある。また、令和2年10月に実施した県立高等学校1、2年生を対象としたアンケートでは、在籍している県立高等学校に満足している生徒は82%あった。これらのことから、魅力ある県立高等学校づくりは一定進展していると考えられる。



#### (4) これからの魅力ある県立高等学校づくりに向けて

計画策定過程における地域の理解やコンセンサスを得ることが不十分であったとの声もあり、今後は計画策定過程で地域と双方向でやり取りする等、地域を巻き込んだ議論をしていく必要がある。

また、中学校長を対象としたこれからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する意見聴取では、「オンリーワンの高等学校、その高等学校ごとの特色をもっと前面に出した学校づくりを進めていく必要がある」や「各高等学校の魅力・特徴は、特に『普通科』である場合伝わりにくく、横並び的なものとして映ってしまっている」といった意見があり、普通科高等学校を中心として、今後も更なる特色化、魅力化を継続して進めるとともに、特色や魅力の発信力の強化を図る。

加えて、将来的に生徒数が大きく減少すると見込まれる地域にある学校においては、学校規模の更なる小規模化が進むと想定されるため、市町との連携・協働による高等学校の魅力づくりを推進する。

## 5 県立高等学校を取り巻く現状と課題

### (1) 生徒数の減少

県内中学校および義務教育学校の卒業生数は、平成2年3月卒の20,747人をピークに減少し、令和2年3月卒は13,753人（H2から▲7,000人34%減）となっている。令和16年3月卒は約12,100人（H2から▲8,700人42%減）となることが見込まれている。

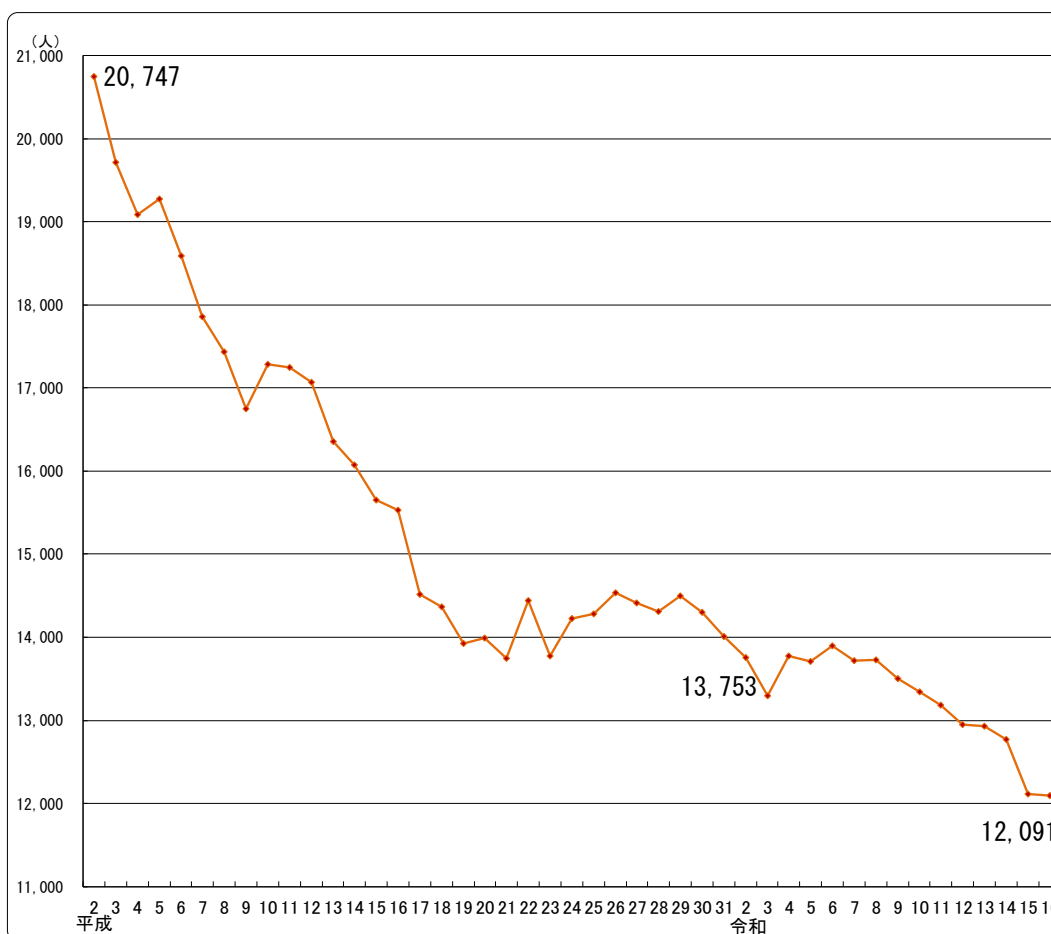
### 中学校および義務教育学校卒業（予定）者数の推移（全県）

2020年9月版

平成																
平成	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
全県計	20,747	19,715	19,088	19,279	18,592	17,859	17,432	16,750	17,283	17,251	17,068	16,361	16,073	15,655	15,526	14,515

令和																
平成	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	2年	
全県計	14,370	13,922	13,988	13,746	14,439	13,773	14,226	14,281	14,537	14,411	14,310	14,500	14,299	14,007	13,753	

令和															
令和	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	
全県計	13,293	13,770	13,710	13,895	13,720	13,728	13,505	13,341	13,183	12,952	12,930	12,769	12,117	12,091	
	▲ 460	17	▲ 43	142	▲ 33	▲ 25	▲ 248	▲ 412	▲ 570	▲ 801	▲ 823	▲ 984	▲ 1636	▲ 1662	



※ 令和3年～令和11年は、令和2年5月1日の学校基本調査による現員  
 ※ 令和12年以降は、令和2年4月1日付けの県人口推計（統計課）による

## (2) 社会情勢の変化

### ①人口減少と少子高齢化

本県の人口は、昭和42年から増加し続け、平成20年には140万人を超えたものの平成25年の約142万人をピークに人口減少に転じた。その一方で高齢者人口は、団塊の世代の高齢化や平均寿命の延伸等により増加し続けており、高齢化が進んでいる。

### ②グローバル化の進展

人口減少により国内市場が縮小する中、海外市場に目を向けた事業展開が進んでおり、更なるグローバル化が進展している。

### ③第4次産業革命と Society5.0

科学技術に目を向けると、第4次産業革命と呼ばれる飛躍的な技術革新や第5期科学技術基本計画で提唱された Society5.0 等、ICTの急速な発展のもと近年非常に大きな変化が起きている。

### ④新型コロナウイルス感染症の拡大

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、生活様式の変化や経済活動、社会的活動の制限を余儀なくされた。学校においても、感染拡大防止のため部活動および学校行事等の制限に留まらず臨時休業が実施され、ICT環境の早急な整備等を通じた学びの機会の保障などの課題が浮き彫りになった。

## (3) 国の動き

高等学校の新学習指導要領が令和4年度から実施されることになっている。子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携・協働することにより、子どもたちを育む「社会に開かれた教育課程」<sup>6</sup>を重視するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等が必要とされている。

また、中央教育審議会では、今後の社会状況の変化を見据え、普通科改革など学科の在り方や地域社会や高等教育機関との協働による教育の在り方等について、令和3年1月に答申を取りまとめられた。

## (4) 高等学校における特別な教育的支援が必要な生徒の増加

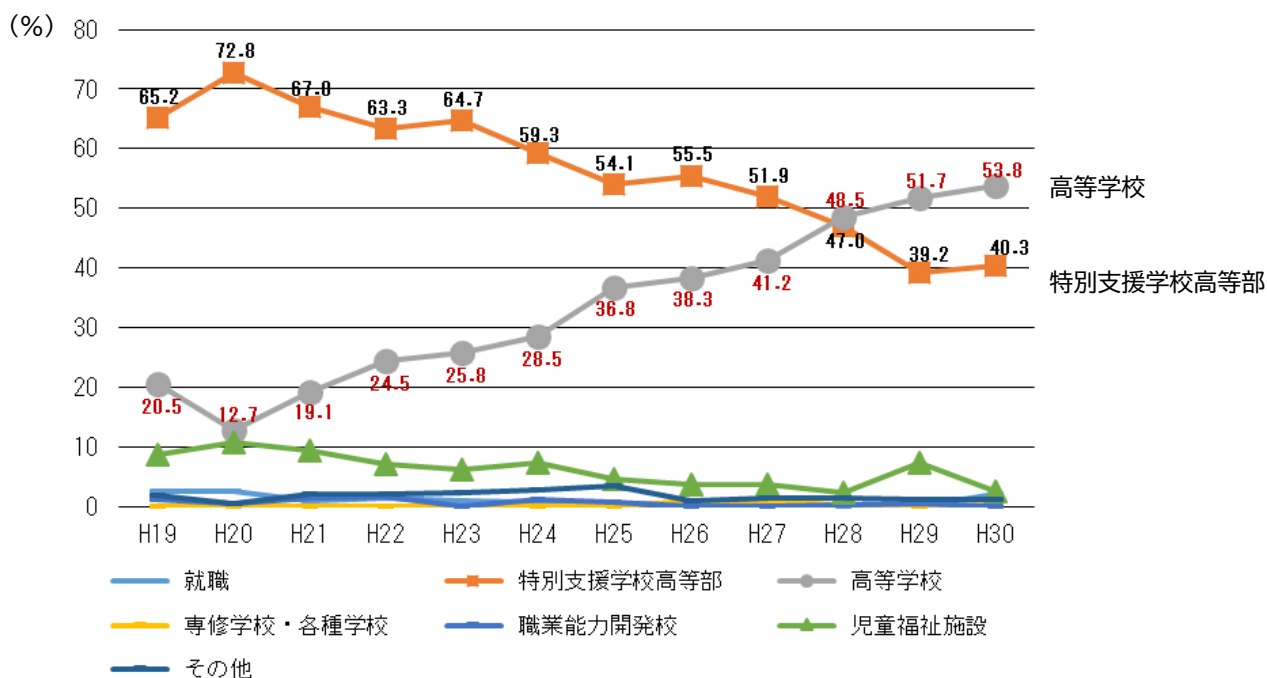
中学校の特別支援学級の生徒の卒業後の進路は、特別支援学校高等部よりも高等学校への進学が増加（平成20年度13%→平成30年度54%）しており、また、高等学校での特別な教育的支援を受ける必要がある生徒の割合は増加傾向（平成22年度2%→令和元年度5%）になっている。

今後とも、障害等により学びにくさのある生徒が、安全安心に充実した学校生活を送れるように取り組む必要がある。

---

<sup>6</sup> 新学習指導要領で示された考え方で、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し、それぞれの学校が必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするかを教育課程において明確にする」とされた。

## 【中学校特別支援学級卒業生の進路状況】



【令和元年度滋賀県特別支援教育支援委員会資料】

(人数)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
就職	4	4	2	3	2	2	1	1	2	0	0	7
特別支援学校高等部	105	115	130	145	143	152	144	161	151	158	129	144
高等学校	33	20	37	56	57	73	98	111	120	163	170	192
専修学校・各種学校	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	0	1
職業能力開発校	2	1	3	4	0	3	2	0	0	1	2	0
児童福祉施設	14	17	18	16	14	19	12	11	11	8	24	9
その他	3	1	4	5	5	7	9	3	4	5	4	4
計	161	158	194	229	221	256	266	290	291	336	329	357

(高等養護学校は特別支援学校高等部に含む)

## 【高等学校における特別な教育的支援が必要な生徒の割合】

発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症等）により、特別な教育的支援を受ける必要があると校内委員会において判断した生徒の割合（診断の有無は問わない）

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
生徒数(人)	32,898	32,238	32,540	31,911	32,144	32,470	32,353	31,874	31,019	30,925
対象者数(人)	710	755	802	897	936	960	1,153	1,338	1,390	1,515
割合	2.16%	2.34%	2.46%	2.81%	2.91%	2.96%	3.56%	4.20%	4.48%	4.90%

【高等学校における特別支援教育実態調査（毎年9月1日調査）より】

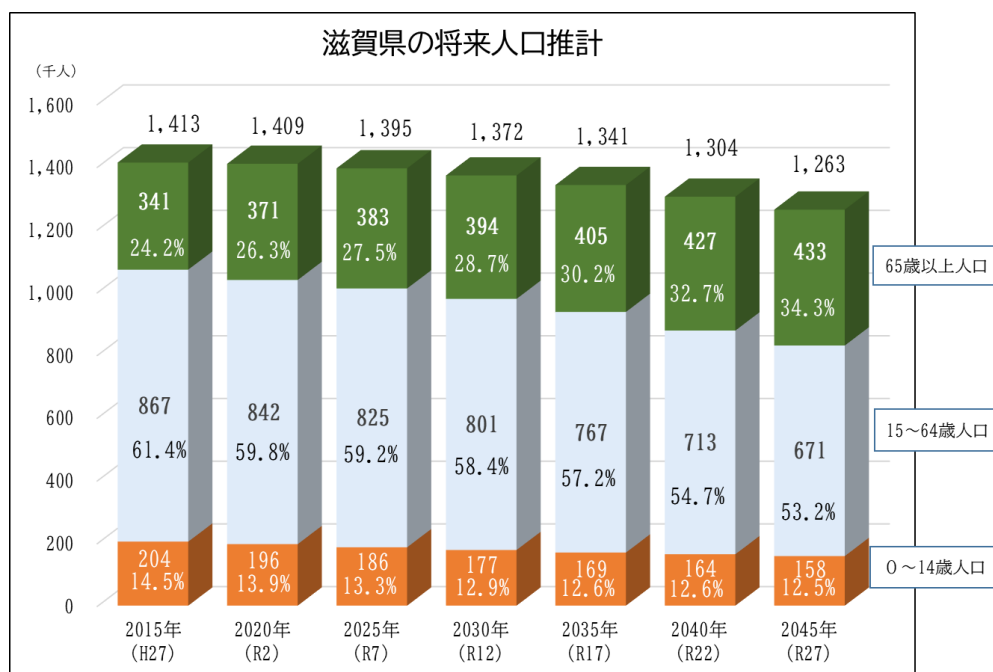
## 6 将来の社会の姿

10～15年先の社会の姿として、以下のことが考えられる。

### (1) 人口減少と高齢化の更なる進行

国立社会保障・人口問題研究所の推計（平成30年推計）によると、令和27年の本県の総人口は126.3万人とされており、平成27年の141.3万人と比較して約15万人減少するとされている。その一方、令和27年の65歳以上の高齢者人口は43.3万人とされており、平成27年の34.1万人と比較して約9.2万人増加するとされている。

さらに、年齢区分別構成比を見ると、平成27年は65歳以上人口の割合が24.2%、0～14歳人口の割合が14.5%だったのに対し、令和27年には65歳以上人口の割合が34.3%、0～14歳人口の割合が12.5%と少子高齢化が一層進展することが見込まれている。



【国立社会保障・人口問題研究所 日本地域別将来推計より】

### (2) 第4次産業革命を通じた Society5.0 の実現

第4次産業革命を通じた Society5.0 の実現により、IoT<sup>7</sup>で全ての人とモノがつながり様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、自ら情報を見つけて分析する作業負担、年齢や障害等による労働や行動の制限等の課題を克服することができるようになると期待されている。

また、AI<sup>8</sup>により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されることも期待されている。

<sup>7</sup> Internet of Things の略。家電、自動車、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すコンセプト。

<sup>8</sup> Artificial Intelligence の略。人工知能。

### (3) コロナ禍を経た生活様式の変化と大規模災害などの発生リスク

新型コロナウイルス感染症の拡大は、日常生活においてはマスクの着用や3密の回避、働き方においてはテレワークの実施や時差出勤等、私たちの生活様式に大きな変化をもたらした。

学校現場においても、臨時休業の実施、学校行事や部活動の制限、オンライン授業の実施等の大きな変化をもたらした。

こうした変化は、感染拡大状況に応じて今後も続くことが予想される。また、テレワークやオンライン授業の実施等一部の变化については、いわゆるコロナ禍の収束後においても一定定着することも考えられる。

さらに感染症だけでなく、100年から150年間隔で発生している南海トラフ地震等の地震災害や豪雨、豪雪、洪水、土砂災害等の大規模災害が発生することも考えられる。

### (4) 持続可能な社会の実現（SDGs）と多様な価値観が尊重される社会

平成27年9月に国連サミットで採択されたSDGsでは、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために2030年を期限とする17の目標を定めている。

我が国では、SDGsアクションプラン2021において、感染症対策と次なる危機への備え、Society5.0の実現、2050年までにCO<sub>2</sub>ネットゼロ<sup>9</sup>やあらゆる分野における女性の参画等を推進することとしている。

また、今後多様な価値観や性の多様性が尊重される社会となることが一層求められる中、県立高等学校においても多様な生徒への対応が必要である。

将来の社会の姿として、想像はできるが予測できないことが起こりうるということを前提としておく必要がある。

---

<sup>9</sup> CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの人為的な排出を減らし、森林などの吸収源を確保することで均衡を図ること。

## 7 高等学校への希望や期待

県立高等学校の在り方検討の参考とするため、生徒、保護者および関係者の意見を聴取した。主な意見の概要は以下のとおり。

### (1) 生徒の立場から

<中学生・高校生 7,688 人回答の主な意見>

- ・文武両道に励みたい。
- ・友達をたくさんつくりたい。
- ・勉強だけでなく行事や部活動も充実して楽しめるようにしてほしい。
- ・楽しい授業が受けたい。
- ・少人数指導の充実をしてほしい。
- ・選択科目を増やしてほしい。
- ・大学受験について丁寧にアドバイスなどをもらいたい。
- ・地域・他校との交流を深めたい。
- ・校舎をリニューアルしてほしい。
- ・高校生活の中で将来のことをじっくり考えたい。
- ・タブレットでの学習を推進してほしい。
- ・リモート授業がコロナ休校中に数回行われた。分かり易く便利だったので、復習用や補足用に導入してほしい。インターネットを活用した学習を増やしてほしい。
- ・学校の良さや特徴を積極的に宣伝して、県内の生徒により多く伝えてほしい。
- ・資格を取る勉強を増やしてほしい。 等

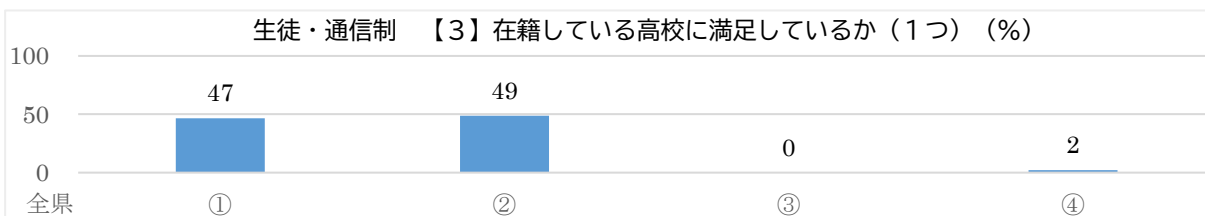
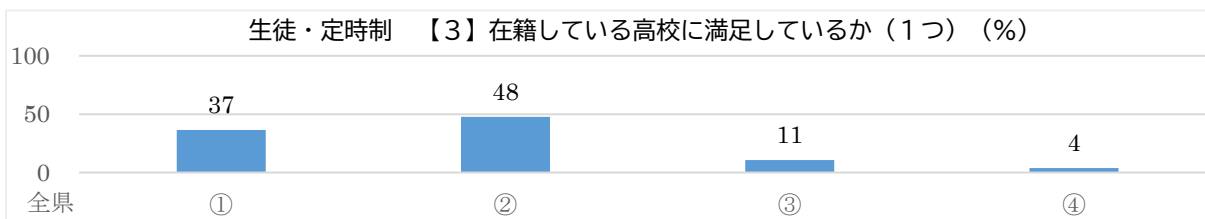
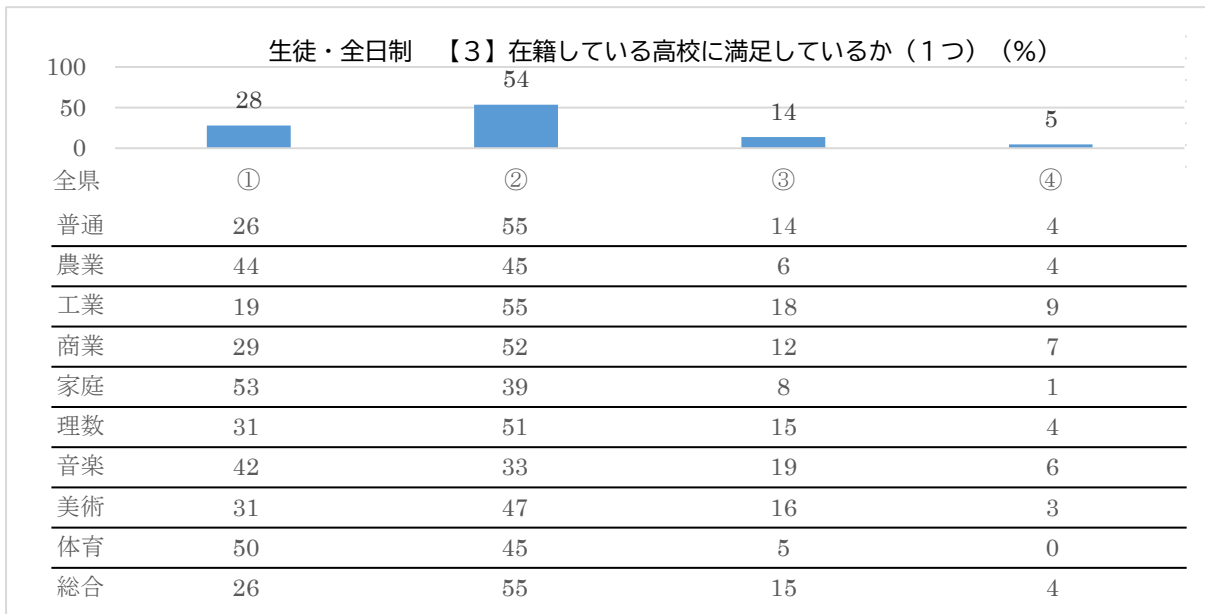
<大学生等 176 人回答の主な意見>

- ・フィールドワークは自分の将来について見据えて考える良い機会だったので、滋賀県の高等学校でもっと取り入れていくべきだと思う。
- ・新しい魅力を作ることよりも、今ある魅力は何かをよく理解し、その魅力を伸ばせるプログラムなどは何か見極めるべきだと思う。
- ・学校行事は生きる力を育成するためには非常に有効な活動。能動的に活動できる取組を増やしていくべきだと思う。
- ・様々な場面でクラスメイトや教職員と団結できる取組をしていくべき。
- ・ディベートなどの自分の意見を述べる機会や相手の考えを受け入れる機会など、お互いが受け入れ合う機会を設けることも大切であると思う。
- ・キャリア教育がもっとあれば良かったと思う。大学進学の話はあったが、将来の仕事や自分の生き方を考える機会が欲しかった。
- ・キャリア選択の活動が良かった。学年全員を対象に、様々な分野の職場の方のお話を聞く機会があり、そこで大手企業で研究をされている方や銀行で働く方のお話を聞いたことで、将来なりたい職業の参考にすることができた。
- ・社会に出て働いている OB や、大学で学んでいる先輩たち、いろんな分野で活躍されている人と交流できる機会を設け、生徒自身が自分の「ありたい姿」がイメージできるようにするとよいのではと思う。 等

(魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート(高校生対象)より)

Q. あなたは在籍している高校について満足していますか。次の中から1つ選んでください。

①満足している ②ある程度満足している ③どちらかと言えば不満である ④不満である



<全日制> ○82%(①+②)の生徒が満足している。

※体育：満足度が最も高い(95%)

※「友人や先輩との関係(49%)」、「部活動(41%)」、「授業(30%)」に満足しているという回答が多い。

※「授業(39%)」、「校風や教育方針(37%)」、「学校の施設・設備(32%)」に不満があるという回答が多い。

<定時制> ○85%(①+②)の生徒が満足している。

<通信制> ○96%(①+②)の生徒が満足している。



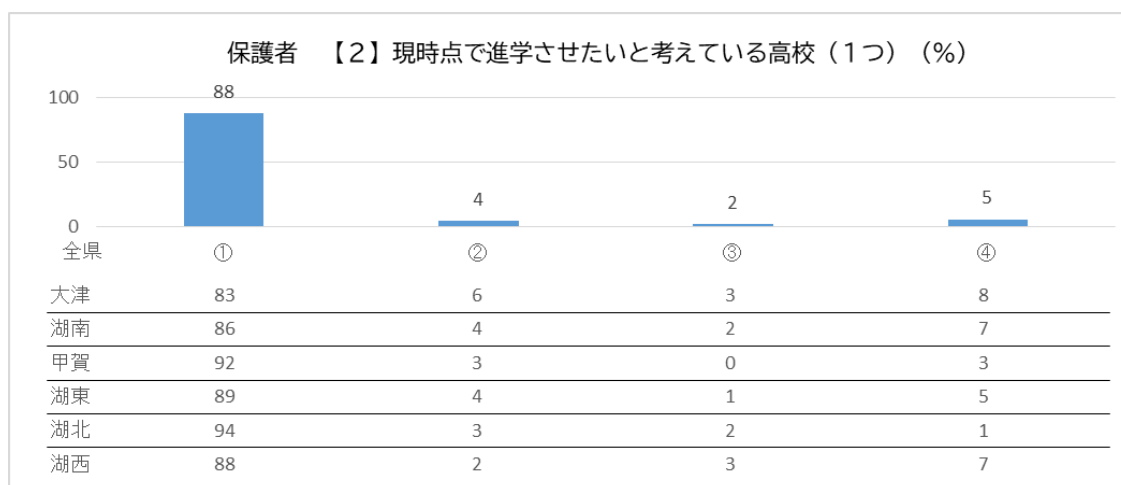
(2) 保護者の立場から〈中学生と高校生の保護者 6,894 人回答の主な意見〉

- ・子どもの可能性を拡げてやりたい。
- ・基礎から学べるようにしてほしい。
- ・楽しい高校生活を送ってほしい。
- ・一般的な教養を普通科、専門学科関係なく身に付くように指導してほしい。
- ・社会に出て仕事をしていく上で仕事は一人では出来るものではないので、周りの人とうまくコミュニケーションを取れる人材を育成してほしい。
- ・社会へ出るための自立する力をつけてほしい。
- ・子どもたち自身で考えたりする機会がもっとあると良い。
- ・勉強ばかりでなく、地域と関わったり学んだりできる授業、人間性を深められる高校生活を送れるような行事、校外学習が多くあると良い。
- ・学力向上だけではなく、人間性を高める、人として正しい考え方等を学ぶ場として高等学校があれば良いと思う。
- ・学習面での充実はもちろんのこと、生徒の生きる力をつけていくためには、学校でしかできない様な人と人とのつながりを大切にするため、部活動や生徒会活動、学級活動などを充実させることが大切だと思う。人と人との関わりから様々なことを学ぶのが学校である。学習面だけなら塾でもできるが、学校でしか学べないことがたくさんあるはずだと思う。
- ・オンライン授業や遠隔授業には力を入れてほしい。 等

(魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート (中学生保護者対象) より)

Q. 現時点でお子様に進学させたいと考えている高等学校を次の中から1つ選んでください。また、そのように思う理由を書いてください。

①県内の県立高等学校 ②県内の私立高等学校 ③県外の私立高等学校 ④その他



○88%の保護者(中学生は66%)が、「①県内の県立高等学校」へ進学させたいと考えている。理由としては、「家から近く通学しやすい」、「学費が安い」、「子どもが行きたいと思っている高等学校が県立高等学校」という回答が多かった。

○主な理由

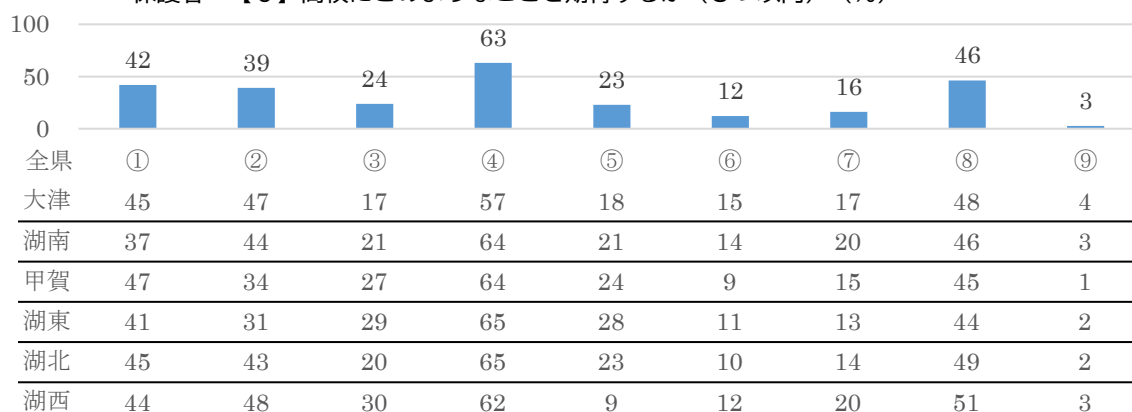
- ①県内の県立高等学校 (家から近く通学しやすい、学費が安い、子どもの希望、魅力ある学校がある、部活動、学校の選択幅がある)
- ②県内の私立高等学校 (部活動、大学進学)
- ③県外の私立高等学校 (県内に子どもが学びたい学科がない)
- ④その他 (高等専門学校)

(魅力と活力ある県立高等学校づくりに関するアンケート (中学生保護者対象) より)

Q. あなたは、高等学校というものにどのようなことを期待しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

- ①基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。
- ②大学等への進学のための学力を身に付けることができる。
- ③資格につながる学習ができる。
- ④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる。
- ⑤就職する時に必要な知識や技術・技能を習得できる。
- ⑥学校行事が充実している。
- ⑦部活動が盛んである。
- ⑧多くの友人をつくることできる。
- ⑨その他

保護者 【6】高校にどのようなことを期待するか(3つ以内) (%)



- 「④自分の進路希望や興味・関心、適性などに応じた科目を選択することができる」高等学校を期待している保護者が最も多い(63%)。
- 次いで、多くの友人をつくり、交友関係の幅を広げてほしいと考えている保護者が多い。  
※「⑧多くの友人をつくることできる」: 46%
- 「①基礎的・基本的な学力(42%)」から、「②大学等への進学のための高い学力(39%)」を身に付けられる高校を期待している保護者も多い。

### (3) 地域社会の視点<市長会、町村会、市町教育長等の主な意見>

- ・県内のどこに生まれ育っても、地元で高等学校でキャリア形成をし、地域創生に資する力や思いを育成することができる魅力ある高等学校教育が推進されなければならないと考える。
- ・地域との協働による地域課題のマッチングに向けた学びから、「社会から学び自らの進路を考える力が付くもの」とも思われる。
- ・高等学校は地域にとって大切な存在である。地域の人材を育成し、将来的に地域に戻って地域に貢献する人材の育成が高等学校の大きな役割であると考えている。
- ・県内のどの地域でも様々な学びが提供されるとともに、キャリア形成を保証するような学校づくりをすることも大切であり、自分を高めるとともに、地域の活性化に貢献する生徒の育成にも重点を置く。
- ・在り方検討が最終的に高等学校再編にならないように要望する。令和4年度からの地域別協議会で地域の声をしっかり聞いてほしい。
- ・地域において1つの高等学校の存続は大きい。 等

(4) 産業界の視点<県内企業関係者等の主な意見>

- ・専門的に教育して、高等学校を卒業してすぐに社会に役立つ人材を育てる必要がある。
- ・施設設備について、今の状況の中でなかなか予算的などころもあって充実していないと思う。企業などと連携し、充実させる必要があるのではないか。
- ・民間人であっても、基準を満たした人であれば生徒を教えることに参加できる仕組みも必要ではないか。
- ・資格がとれる仕組みを整えてほしい。 等

(5) 教職員の立場から<中学校・高等学校管理職、中堅教諭等の主な意見>

- ・県立高等学校の子どもや保護者に特色ある学校づくりはなかなか浸透しない。私立高等学校に比べるとまだまだアピール不足だと思う。子どもや保護者が気軽に見学できるような取組が必要だと思う。
- ・国境を越えて世界の同世代とつながるカリキュラムを持ち、グローバルコンピテンス<sup>10</sup>の涵養を目指す学校も必要だと思う。
- ・人間性を高めるために、授業はもちろん、部活動や学校行事も大切にし、いろいろな「経験」ができる教育活動を工夫したい。
- ・ICTの活用と授業改善を推進して生徒主体の授業づくりを更に進めていきたい。
- ・生徒が自らの将来を考える機会を増やしたい。
- ・「文武両道」と「地域との連携」を大きな柱として、将来地域に戻り、地域に貢献できる人材づくりに引き続き取り組んでいきたい。
- ・高等学校を卒業してからの人生にしっかり役立つような経験と知識を生徒たちが得られる場になるように努めていきたい。
- ・学校の規模が小さくなると学校の活気や学園祭等の行事、部活動に影響がある。
- ・集団だからこそできる学びや体験を各学校の特色として打ち出していく必要があると強く感じた。
- ・多様性を認められ、受け入れられるような取組が必要だと思う。
- ・教職員全体が各校の特色を生み出せるような思考時間をもてるように、余裕を持てるように変わる事、変える事への支援が必要だと思う。
- ・人口減少地域において一定の学校規模で教職員数も充実した状況を作ることが必要。
- ・外部指導や地域の方との連携で負担が増え、本来やるべき教科指導や部活動指導に力を注ぐことが十分できないことが課題となる。
- ・ある程度「過ごしやすく快適な」環境を用意する必要がある。
- ・社会の変化に合わせて教育を提供することが今後の我々の使命になる。
- ・特別な教育的支援や部活動において専門家をつけることが必要だと思う。 等

<sup>10</sup> 国際的な場で必要とされる能力。

(6) 卒業後の進学先の視点<大学、短大、専修学校等の主な意見>

- ・根拠のある意見を述べることで、既習内容等を活用して思考・意見・議論などしていく力が弱い。ディスカッションをする際に、根拠のある意見を述べる力の育成が必要。
- ・現在、理系生は一部の高校に偏っている状況。将来、文系生と同じくらい理系生を増加させる施策が必要。
- ・大学全入時代の今、大学生の学力は総じて低下しているといわれるが、それより問題なのは「主体的に学ぶ姿勢」だと思う。学ぶ意欲を持った生徒に入学してほしい。
- ・生徒が大学に進学を希望する際には、自身の関心や志向を見つめなおし、これと学問とを接続していくことが必要と思われる。AIによるマッチングやアドバイスなどといった、デジタル技術による生徒の気づきを細かく喚起する新しい指導方法も実現していくのではないかな。
- ・間違えたりミスをするのを恐れたりする傾向が強い。課題に対して、トライ&エラーしながら進めていく力が弱い。答えがすぐに出ない問題・課題にチャレンジする機会を増やしてみてもどうか。
- ・職業系専門学科では、現場体験や職業人の講話など実体験の機会を増やし、職業へのあこがれを育む取組が重要だと思う。 等

(7) その他の学校関係者の視点<スクールカウンセラー、塾等の主な意見>

- ・対人不安の強い生徒たちが同じ教室で学ぶことの難しさがある。先生方が様々な対処法のスキルを身に付けられるよう支援が必要だと思う。
- ・学校の魅力の発信にもっと力を入れてほしい。中学生にとって高校に触れるという体験は大きく、オープンスクールのように直接情報を届けることは大事。
- ・ふるい落としではなく、これがダメでもあっちがあるという「緩さ」、「余裕」があれば、子どもたちもあまり苦しまなくてすむのではないかな。 等

## Ⅱ これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方

### 1 本県教育の基本理念

本県教育の基本目標は、平成 31 年（2019 年）3 月に策定された滋賀の教育大綱において、「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」と定められている。また、サブテーマとして「人生 100 年を見据えた『共に生きる』滋賀の教育」を掲げ、人生 100 年をより豊かに生きていくために、多様な人と交わりながら、生涯を通じて学び、その学びの成果を地域に生かしていくことで、「人と人」、「人と地域」がともに連携し、滋賀の教育の充実と地域の活性化が良い循環を生み出すことを目指すこととしている。

### 2 育成すべき生徒像

10～15 年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのための魅力ある高等学校づくりを検討するに当たり、「I-6 将来の社会の姿」の整理や、「I-7 高等学校への希望や期待」を踏まえて、県立高等学校で育成すべき生徒像を次のとおりとした。

「生きる力（自立する力、伝える力、協働する力、創造する力等）がある」

### 3 高等学校の役割

高等学校は、上記の「Ⅱ-2 育成すべき生徒像」で示した生徒の生きる力（自立する力、伝える力、協働する力、創造する力等）を様々な教育活動の中で育む場となる。

また、中学校における教育の基礎の上に、生徒一人ひとりがもっている好奇心や探究心を更に発展させる場であるとともに、「答えを見つける」教育から「課題を見つけて解決に向けて考え行動する」教育の場となることも求められる。

### 4 魅力化の視点

「I-6 将来の社会の姿」で整理した多様な価値観が尊重される多様性のある社会や人口減少社会等への対応を踏まえて、小中学校での学びを十分生かすとともに、高等学校卒業後の進路となる大学や社会、および県内に設置される高等専門学校等とのつながりを大切にしながら、ICTも活用し、持続可能な形で魅力化を図る。

また、森・川・里・湖が水系でつながり、近江の心が根付いた「滋賀」ならではの学び、それぞれの県立高等学校でこそその学びを地域とともに推進する。

## 5 目指す姿

「I-6 将来の社会の姿」で整理した Society5.0 の実現や多様な価値観が尊重される社会等の実現、さらに想像はできるが予測できないことが起こりうること、また「I-7 高等学校への希望や期待」を踏まえて、県立高等学校の目指す姿を次の8つに整理した。

(■高等学校別 ◇県域全体)

- ①生徒が自ら主体的に学び「生きる力」をつけることができる
  - ◇全ての生徒に自分を高める学びが提供されている
  - ◇多様な人との出会いやコミュニケーションを通じて深め発見できる学びが提供されている
  
- ②生徒が多様性を尊重し世界につながり活躍するための力をつけることができる
  - グローバル人材や科学技術人材が育成されている
  - 大学等と連携した高度な専門的学びが提供されている
  - ◇ICTを活用した対話的・協働的な学びが実現できている
  
- ③生徒同士が切磋琢磨し成長できる
  - 学校行事や生徒会活動、部活動が活性化している
  - ◇学校でこそ育まれる人と人とのつながりを意識した場が提供されている
  
- ④場所や時間を選ばない学びができる
  - ◇ICTや外部人材を活用し、所属する学校の枠にとらわれない柔軟で多様な学びが提供されている
  
- ⑤生徒が社会から学び自らの進路を考えることができる
  - 地域の教育資源や人々と関わる学びが提供されている
  - 産業界と連携した学びが提供されている
  
- ⑥障害のある生徒とない生徒が互いに学び合い互いを尊重できる
  - ◇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる
  - ◇障害のある生徒に対して必要な支援が提供されている
  
- ⑦生徒が自らに合った学びを選択できる
  - それぞれの県立高等学校ならではの魅力や特色が人々に理解されている
  - 基礎学力充実、不登校、日本語学習等に対応する学びが提供されている
  - ◇県内どの地域でも様々な学びが提供されている
  - ◇経済的に不利な環境にある生徒への支援が充実している
  - ◇男女の人権や性の多様性が尊重される学校づくりが進んでいる
  
- ⑧教職員が生徒一人ひとりに愛情をもって向き合いサポートできている
  - ◇授業改善が進むとともに教職員自身の人間性や創造性を高め効果的な教育活動ができている

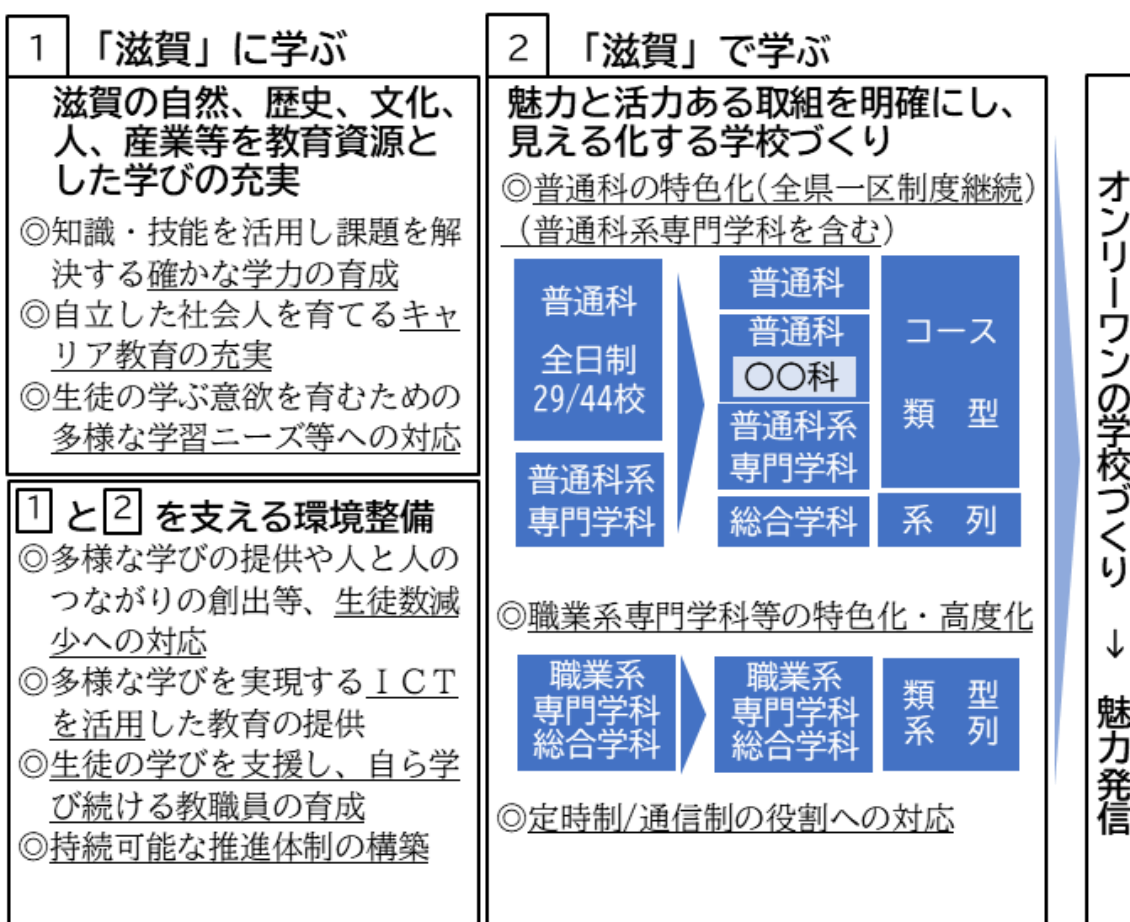
## 6 滋賀の県立高等学校づくりのコンセプト

これからの滋賀の県立高等学校が目指す姿を実現するため、「多様な生徒一人ひとりが、『滋賀』という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進める」をコンセプトとする。

1「滋賀」に学ぶとして、滋賀の自然、歴史、文化、人、産業等を教育資源とした学びを充実させ、2「滋賀」で学ぶとして、滋賀の県立高等学校の魅力と活力ある取組を明確にし、見える化する学校づくりを進めるとともに、これらを支える環境整備を行い、オンラインの学校づくりに取り組み、魅力を発信していく。

### 滋賀の県立高等学校づくりのコンセプト

多様な生徒一人ひとりが、「滋賀」という地域から学び、  
社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進める



## 参考

### <コース、類型、系列について>

- コース：普通科における教科のうち1教科または複数の教科を重点的に履修することにより、将来の進路への動機づけを強め、個性を生かし、目的意識や意欲をもって学習することができるよう設置するもの。  
入学者選抜では普通科として募集し、入学許可予定者発表後にコース希望者を募り、1年次から分かれる。  
    体育コース（伊吹、愛知、水口）、音楽コース（愛知）  
    SSコース（彦根東）、国際文化コース（北大津、水口）  
    福祉健康コース（石部）、英語コース（米原）
- 類型：文系、理系、看護系のように、生徒が自己の特性、進路等に応じ、学習に計画性、継続性が持てるよう、学校が独自に各教科・科目をあらかじめ配列したもの。2年次以降に分かれる。
- 系列：総合学科において、体系性や専門性等において相互に関連する普通科目および専門科目をまとめて設置したもの。  
教育課程上の総合選択科目群。1年次後半あるいは2年次から分かれる。  
    メカトロニクス系列（国際情報、長浜北星）、セラミック系列（信楽）  
    スポーツ科学系列（彦根翔西館）、食と健康系列（甲南）  
    ビジネス系列（日野） 等

## 参考（滋賀の教育大綱より）

### <近江の心>

- ・先人たちの教えを引き継ぎ、未来につなぐことで、郷土への愛着と道徳性を育てます。

#### （主な教え）

- 中江藤樹先生の教えである「良知（生まれながらにして持っている美しい心）」の心
- 糸賀一雄先生の言葉である「この子らを世の光に」の考えにある一人ひとりを大切にすること
- 雨森芳洲先生の言葉である「互いに誠を持って交わろう」の考えにある異文化を理解すること
- 近江商人の経営の理念である「三方よし」の考えにある公の心
- 琵琶湖とともに生き、自然環境を大切にすること  
    など、それぞれの地域で受け継がれ大切にされてきた先人の心を大切にします。



### Ⅲ 取組の方向性

#### 1 確かな学力の育成

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善 [目指す姿①⑧]

学校の教育活動を進めるに当たっては、全ての高等学校において、実情に応じて学習指導要領に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善により教育の質を向上させる。あわせて、全ての生徒たちの可能性を引き出す「個別最適な学び<sup>11</sup>」と「協働的な学び<sup>12</sup>」を一体的に充実していくことが重要であり、研究指定校による先進的な研究・取組を県全体で共有する。

また、生徒や地域の実態を踏まえ、教育課程を編成・実施・評価・改善するとともに、小中高の学校段階間の円滑な接続や教科等横断的な視点で組織的、計画的に教育活動の充実を図るカリキュラムマネジメントの定着を図る。

(2) 「読み解く力」<sup>13</sup>をもとにした探究的に学ぶ力の育成 [目指す姿①]

読み解く力をもとに、生徒が自ら問いを見いだし探究的に学ぶ力を育成する。総合的な探究の時間等を活用して、ICTを用いた探究的な学習の実践研究など、研究指定校による先進的な研究・取組を県全体で共有する。

#### 2 キャリア教育の充実

(1) 小中学校と高等学校、大学等の連続性を踏まえたキャリア教育の推進

(タテの連携) [目指す姿①⑤]

小中学校での学びを踏まえて、高等学校から大学、社会への円滑な移行に対応し、社会的・職業的に自立するために必要となる資質・能力を備えた生徒を育成する。

キャリアパスポートを活用して小中学校でのキャリア発達を踏まえた系統的な取組を行うとともに、大学生や社会人等の外部人材との交流等により、生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通せるような取組を行う。また、成年年齢の18歳引き下げに対応し、社会の形成者として主体的に参画しようとする資質・能力の育成を図る主権者教育を充実する。

<sup>11</sup> 「指導の個別化」と「学習の個性化」を学習者視点から整理した概念。中央教育審議会の令和3年答申では、生徒一人ひとりの興味・関心・意欲等を踏まえたきめ細かな指導・支援や、生徒が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められると記されている。

<sup>12</sup> 探究的な学習や体験活動などを通じ、生徒同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する学び。

<sup>13</sup> 文章や情報を正確に読み解き理解する力、また相手の言葉やしぐさ、表情などから相手の考えや思いを読み解き理解する力など。(滋賀の教育大綱)

## (2) 地元企業などの地域の教育資源を活用したキャリア教育の推進

(ヨコの連携)

〔目指す姿①⑤〕

地域や社会の将来を担う人材育成も視野に入れ、行政機関、地域住民、産業界、大学等と連携・協働したフィールドワーク（現地調査）による課題研究や地域の課題解決に向けた学習を推進する。職業系専門学科・総合学科におけるインターンシップやデュアルシステム<sup>14</sup>の実施と、普通科（普通科系専門学科含む）におけるインターンシップの実施や学校間連携を推進する。連携・協働を推進するためのコーディネーターの配置やコンソーシアム<sup>15</sup>の構築、学校運営協議会の設置に取り組む。

### 3 多様な学習ニーズ等への対応

#### (1) 特別な教育的支援を必要とする生徒への指導の充実

〔目指す姿⑥⑦〕

障害のある生徒と障害のない生徒がともに安心・安定した学校生活を送れるように、特別支援教育コーディネーターや特別支援教育支援員による教職員研修の充実、通級による指導の拡大、特別支援学校との連携強化などを進める。

#### (2) 日本語指導が必要な生徒等への支援の充実

〔目指す姿⑦〕

滋賀県内の外国人人口は近年増加傾向となっており、日本語指導が必要な外国人生徒等への支援については、生徒とその保護者の生活状況等にも配慮しながら進め、安心して学ぶことができる教育の充実を図る。

#### (3) 不登校生徒への支援の充実

〔目指す姿⑦〕

不登校等の課題に早期に対応するためスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した支援体制の充実を進め、多様な学習ニーズに応じて、ICTの活用等による個別最適な学びの実現を図る。

#### (4) 基礎学力充実のための取組の工夫

〔目指す姿⑦〕

学習の遅れがちな生徒の実態に応じて、義務教育段階の学習内容を定着させる指導など、基礎学力充実のための教育課程や少人数指導の工夫等を図る。

#### (5) 経済的に不利な環境にある生徒への支援の充実

〔目指す姿⑦〕

経済的な理由により高等学校での修学が困難な生徒に対して滋賀県奨学資金の貸与を行うほか、低所得世帯の生徒の保護者に奨学のための給付金を支給するなど、高等学校での教育に係る経済的負担の軽減を図る。また、家族の状況により重い負担を抱える生徒に対して関係機関と連携し学業に専念できるような支援の充実を図る。

#### (6) 男女の人権や性の多様性が尊重される教育の推進

〔目指す姿⑦〕

固定的な性別役割分担意識にとらわれず、主体的に学び、考え、行動する姿勢を育む教育を推進する。また、生徒の心情等に配慮した性自認・性的指向に関するきめ細かな相談や支援等の取組を進める。

<sup>14</sup> 若年者向けの実践的な教育・職業能力開発の仕組みとして、企業での実習と学校での講義等の教育を組合せて実施することにより若者を一人前の職業人に育てる仕組み。

<sup>15</sup> 一つの目的のもとに、複数の企業・団体などが形成する連合体。

## 4 普通科の特色化（普通科系専門学科を含む）

### （1）普通科の学科改編やコース、類型の設置 〔目指す姿①②③⑤⑦〕

本県においては、中学生が自分に合った高等学校を主体的に選択できるようにするとともに、特色ある学校づくりを一層推進することをねらいとして、平成18年度入学者選抜から、普通科高等学校の通学区域を居住地による制限のない全県一区としている。平成28年度に県教育委員会でこの通学区域の制度を検証し、その中で、中学生、高校生とその保護者の9割以上が制度を肯定していることなどから、この制度を継続している。

また、国において、令和3年1月の中央教育審議会答申等を踏まえ、高等学校の特色化・魅力化を進めるため、「普通教育を主とする学科」の弾力化（高等学校設置基準及び高等学校学習指導要領の一部改正、令和4年4月1日から施行）が示された。

こうしたことから、本県の県立全日制高等学校44校中の29校を占める普通科について、通学区域の全県一区制度を継続したうえで、県教育委員会が全県的な視野から多様な学びの選択肢を提供するための魅力化の方向性を提示し、各学校が学科やコース・類型の設置や科目選択等の工夫を主体的に検討することにより、特色化・魅力化を一層促進する。

また、教育課程や少人数指導の工夫、外部人材の活用を図るほか、行政機関や地域住民、産業界、大学等との連携・協働を推進するためのコーディネーターの配置やコンソーシアムの構築、学校運営協議会の設置等に取り組む。

#### 【学科やコース・類型の例】

- ・学際領域に関する学科、地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに関する学科、その他普通教育として求められる教育内容であって、特色・魅力ある教育を実現すると認められる学科
- ・普通科系専門学科、総合学科への改編、コース、類型の設置等（地域探究、学際融合、環境科学、スポーツ科学、先端科学、環境防災、データサイエンス、歴史観光、保育、地域貢献等）

### （2）グローバル人材、科学技術人材の育成 〔目指す姿②〕

教科等の目標や内容を見通して、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のために、教科横断的な学習を充実することや、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められる。

そのため、文部科学省の指定事業（SSH<sup>16</sup>、WWL<sup>17</sup>）や県の事業（国際バカロレア）等により、教科横断的で探究的な学びの拠点となる高等学校を県内に複数校配置し、大学・研究機関等との連携・協働の取組も推進し、将来国際的に活躍しうる人材等の育成を図る。

<sup>16</sup> スーパーサイエンスハイスクール（Super Science High School）の略称。先進的な理数教育を通して生徒の科学的な能力等を培い、将来国際的に活躍しうる科学技術系人材等の育成を図る。

<sup>17</sup> ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業の略称。世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材を育成するため、国内外の大学、企業、国際機関等と協働し、高校生国際会議の開催等の高度な学びの仕組みを構築する。

(3) 普通科系専門学科（音楽・美術等）の学びを継続するための工夫〔目指す姿⑦〕

音楽科、美術科、理数科、体育科等の普通科系専門学科の教育内容の改善・充実を図るとともに、中学生の志望状況等を踏まえて、必要に応じて学科改編、コース化、学級定員の弾力化等を検討する。また、国の「普通教育を主とする学科」の弾力化を踏まえて、学際領域に関する学科の設置に向けた研究を進める。

(4) 高等学校の特色のPR〔目指す姿⑦〕

本県では、普通科の国際バカロレアや大学との連携、総合学科の多彩な系列の学び、専門学科の地域連携の取組など、全ての県立高等学校が特色ある教育活動を行っている。

一方で、中学生と高校生へのアンケート結果等からは、高等学校の情報を進路選択の直前の中学3年生になってから得ており、特に普通科においては主に自分の成績をもとに高等学校を選択している現状がある。また、専門学科においては保護者等に正しい情報が伝わっていないとの意見がある。

そのため、中学生が高等学校入学後の生活で知りたいことや抱えている不安等を踏まえて、入学後のミスマッチを防ぐ観点からも、小中学生や保護者、地域の方々、中学校教職員等、ターゲットを絞って、学習成果等の県立高等学校の特色を知ってもらう機会を確保する。その際は、高校生による在籍校紹介の取組やホームページ、動画、SNS等の発信の充実を図るなど、多様な手法を活用しながら、様々な機会をとらえてPRに取り組む。



## 5 職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化

### (1) Society5.0 社会に対応した人材育成 [目指す姿①②③⑤]

変化の速い Society5.0 社会に対応するためには、高等学校段階では、最先端の技術や知識、職業上必要となる専門性の基礎となる部分をしっかり身に付けることと、民間企業等で新しい技術に触れる機会や実習、数日間の体験型に留まらない中長期の実践型インターンシップへの参加などバランスよく設けながら、技術者の卵となる人材を育てるという視点を持って取り組む。また、滋賀県のこだわりある産業や企業としっかりとスクラムを組み、滋賀の産業全体と高校教育を結び付けながら、価値を見出していく取組を進める。さらに、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくため STEAM 教育<sup>18</sup>等の教科横断的な学びを推進する。

### (2) 地域や産業界と連携した産業教育 [目指す姿⑤⑦]

「高等学校産業人材育成プロジェクト事業」を中心に、地元企業や産業と連携した取組を推進しているところであるが、これまで以上に地域や産業界との連携を進めるため、学校と関係機関を結びつける地域連携・産学官連携コーディネーターや専門部署の設置を検討する。

地域の産官学をはじめとする地域資源を生かした、地域の活性化につながる地域づくり、まちづくりに関わる学習を進めることで、地域の抱える課題を考え、実態社会を起点とした学びの機会や、一つの産業だけでなく経済活動全体を俯瞰した学びの機会を創出する。特に、専門高等学校間の交流や連携した取組、学校や学科を超えた連携により、産業の複合化への対応につなげる。また、こうした取組により、生徒の起業家マインドの醸成を図る。

### (3) 産業教育の推進にかかる環境整備 [目指す姿⑤⑦]

学校現場においては、施設・設備の充実、老朽化した機器の定期的な更新など、生徒が安全に正しく基礎的・基本的な専門知識・技術を身に付けることができる環境整備に取り組む。最先端の機器については、「スマート専門高等学校」<sup>19</sup>による施設・設備の充実を図っており、加えて、大学や企業と連携し、最先端の機器について学ぶ機会や実際に実習を行う機会を提供できる体制の構築など、学校外のリソースを活用した持続可能な仕組みづくりを進める。

産業教育を支える教職員の人材確保に向け、教職員自身が先端技術を扱う企業や大学などにおいて一定期間研修を受け、最先端に触れスキルアップできる機会の充実を図る。また、マイスター・ハイスクール事業<sup>20</sup>のような外部人材の活用や、教職員志望の生徒が増えるような進学コースの設置など、自前で人材を確保する取組を検討する。

<sup>18</sup> Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Arts (芸術) および Mathematics (数学) のそれぞれの頭文字をとった造語であり、各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育のこと。STEAM の A の範囲は、芸術にとどまらず、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲 (Liberal Arts) で定義されることもある。

<sup>19</sup> Society5.0 時代における地域産業を支える職業人育成を進めるため、専門高等学校にデジタル化対応装置の環境を整備する文部科学省の事業。予算規模は全国で約 274 億円であり、本県では約 21 億円。

<sup>20</sup> 第 4 次産業革命等の産業構造や仕事内容の急速な変化に対応した人材を育成するため、専門高等学校と産業界とが連携して職業人材育成システムを構築する文部科学省の事業。

#### (4) 職業系学科の魅力を伝える方策 〔目指す姿⑦〕

普通科同様に、学科やコース選択のミスマッチを防ぐため、生徒や保護者、地域にとって魅力ある職業系学科として認知され、生徒に選ばれるための情報発信等に取り組む。具体的には、各専門高等学校が一堂に集まり、学習成果を伝えるイベントを企画したり、インスタグラムやツイッター等のSNSや動画配信などを活用した広報活動の展開、卒業後の進路が具体的に伝わるようOBOG訪問など身近なロールモデルを活用する等工夫した取組を進める。

また、中学校教職員が産業教育を知るための研修を実施したり、小中学校との連携事業や地域イベントへの参加、普通科高等学校の生徒が職業系学科の学びを見学すること等の交流にも取り組み、職業系学科の学びを広く発信する機会とする。

### 6 定時制/通信制の役割への対応

#### (1) 多様な生徒の進路保障等を見据えた学びの場の提供 〔目指す姿③⑦〕

定時制課程（夜間・昼間）や通信制課程には、不登校や中途退学の経験のある生徒をはじめとする多様な生徒が入学している。そのため、各校では生徒の学び直しや日本語学習などの多様なニーズに応える教育活動が行われている。

今後も、定通併修や高等学校卒業認定試験による単位認定など、定時制・通信制高等学校の制度上のメリットを活用し、多様な生徒の進路保障等を見据えた学びの場となるよう教育方法の充実を図る。

### 7 生徒数減少への対応

#### (1) これまで以上に地域と連携・協働した学校づくりの推進 〔目指す姿⑤⑦〕

生徒数の減少により規模が小さくなる高等学校では、学校内だけの閉じた教育活動では生徒を伸ばすことが困難になることも予想される。そのため、これまで以上に、「社会に開かれた教育課程」の実現が重要となることから、地域とともに目指す姿を具体化していく必要がある。そのため、地域活性化の観点から、県立高等学校が所在する市町等との意見交換の場の設定、行政機関や地域住民、産業界、大学等との連携・協働を推進するためのコーディネーターの配置、コンソーシアムの構築、学校運営協議会の設置などを進める。

#### (2) 多様な学びを実現するための少人数学級の工夫 〔目指す姿⑦〕

本県の県立高等学校は、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の基準等に関する法律」で標準とされているとおり、1学級の定員を40人としている。その上で、これまでから県立高等学校によっては、30人の学級編成にするなど特色ある教育課程の編成による多様な指導を行っている。

今後も、各学校の実情に応じて、例えば、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための指導を取り入れるなど、多様な学びを実現するための少人数学級の工夫に柔軟に対応できるよう取り組む。

(3) 市町のまちづくりと連携した特徴的な学科等の設置や磨き上げ〔目指す姿⑤⑦〕

県立高等学校が立地する市町の企画部門への聞き取りでは、生徒が主体的にまちづくりに関わることや、県立高等学校が地域の特色を生かす学校となることが必要という意見を多くいただいた。地域の小中学校からの学びを踏まえて、小中学校と県立高等学校間の連携を図りながら、市町のまちづくりと連携した特徴的な学科等を設置したり、行政や地域と連携したPRなどの事業を行うことによって、オンリーワンの高等学校の魅力を磨き上げる。

(4) 普通科の学科改編やコース、類型の設置〔目指す姿①②③⑤⑦〕  
(P24 参照)

(5) 学校行事、部活動等の学校間連携や地域連携についての研究〔目指す姿③〕

学校行事や生徒会活動、部活動等は、どの学校においても多様な生徒が活躍できる場としてなくてはならないため、その充実・強化を図る必要がある。特に、生徒数と教職員数が少ない県立高等学校では、教職員の献身的な勤務だけでは活動内容を維持することが困難となっていくため、学校間連携や地域連携による活動の在り方の研究を進める。

## 8 ICTの活用

(1) 全ての県立高等学校でのICT環境の充実・更新〔目指す姿①④〕

新しい学習指導要領に対応した教育を推進するため、学校から高速でインターネットに接続できるICT環境の整備を進める。ICTの効果的な活用により、対面授業や授業配信等の授業改革を進めるとともに、不登校・長期入院等の生徒を含めた多様な生徒を誰一人取り残すことのない個別最適な学びの実現に向けた取組を進める。

また、学校間でのオンライン授業などの実施により、学校での学びに留まらないつながりの創出も期待される。ICT化が進む学校における協働性、社会性等の育成研究や取組事例について、県全体での共有を図る。

(2) ICT活用のコンテンツ等の共有化〔目指す姿①④〕

各学校において、生徒の発達段階を考慮しながら情報活用能力の育成を図るためICTを活用した学習活動を充実させる。具体的には、対面授業でICTを活用することにより、学習履歴(スタディ・ログ)を蓄積・分析・利活用した個別最適な学びの実践や、対面授業とオンライン授業を併用したハイブリット授業の研究を推進する。また、オンデマンドによる授業配信や、反転授業<sup>21</sup>等への活用も重要な取組である。ICTを活用した学習活動の充実により、多様な他者と協働した探究的な学びや、PBL<sup>22</sup>型の学びにつなげる。あわせて、BYOD<sup>23</sup>を導入することから、ネットワーク接続環境やPCのない家庭への支援策を構築する。

<sup>21</sup> 授業と宿題の役割を「反転」させる授業形態。タブレット端末やデジタル教材等で授業前に自宅学習し、授業では演習や議論を行う。

<sup>22</sup> Project Based Learning の略称。生徒が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習方法。

<sup>23</sup> Bring Your Own Device の略称。私物のパソコン・スマートフォン・タブレット型端末などを利用すること。



(3) 教職員のICTを活用するための研修等の充実 [目指す姿①⑧]

ICTを活用した学習活動によって生徒の教育的効果を上げるために、教職員が自校のICT環境に応じて指導力を向上させる研修の充実を図る。また、教職員の支援や学校教育の効率化を図るため、ICT教育のサポート体制づくりを進める。

## 9 生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成

(1) 優秀で意欲のある人材の確保 [目指す姿⑧]

教育者としての使命感と責任感、教育的愛情を持ち、専門的指導力のある滋賀の教育を担う人材の確保に努める。そのため、滋賀で教職に就く魅力ややりがいを、他府県出身者や社会人、また、これから進路を決定する高校生等の若年層に積極的に発信するなど、教職員志望者の拡大を図る取組を一層充実させる。

(2) 研修の充実 [目指す姿⑥⑧]

生徒の力を引き出し伸ばす教職員の実践力の向上のために、「滋賀県教員のキャリアステージにおける人材育成指標」<sup>24</sup>に基づく、教職員の資質・能力の向上を目指す研修やICTを活用するための研修の充実を図る。また、多様な生徒一人ひとりに組織として適切に対応できるよう、必要な知識やスキルを習得するための研修の充実を図る。

## 10 持続可能な推進体制の構築

(1) 地域と連携・協働した学校づくりの推進 [目指す姿①⑤]

多様な生徒一人ひとりの学びを支えるためには、地域と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現と、教職員の負担軽減の実現も踏まえた持続可能な推進体制の構築が必要である。そのため、行政機関や地域住民、産業界、大学等との連携・協働を推進するためのコーディネーターの配置やコンソーシアムの構築、学校運営協議会の設置などを進め、地域課題の解決に向けた探究的な学び等を実現する取組を展開することで、学校の機能強化を図る。

(2) 働き方改革の推進 [目指す姿⑧]

あらゆる教育が学校と関わりとされる中、さらに県立高等学校の魅力化を進めると、教職員の業務過多になることが懸念される。そのため、教職員が健康でいきいきと働き、生徒一人ひとりと向き合う時間を確保することにより、教育の質を高め生徒の生きる力を育むことができるように、「学校における働き方改革取組方針」および「学校における働き方改革取組計画」<sup>25</sup>に基づき、業務の徹底した見直しやICTの活用、多様なサポート人材の活用等の取組を推進する。

<sup>24</sup> 教職経験に応じて求められる授業力や生徒指導力等の資質・能力の具体的な育成指標

<sup>25</sup> 教職員が子ども一人ひとりと向き合う時間を確保することをテーマに、学校における働き方改革を進めるために策定。

### (3) 経営方針の明確化 〔目指す姿⑦〕

国においては、令和3年1月の中央教育審議会答申等を踏まえ、高等学校の特色化・魅力化を進めるため、高等学校における三つの方針<sup>26</sup>を策定し公表すること（学校教育法施行規則の一部改正、令和4年4月1日から施行）が示された。

こうしたことから、本県においても、県教育委員会が全県的な視野から多様な学びの選択肢を提供するための魅力化の方向性を提示し、各県立高等学校は教職員の主体的な検討や地域との意見交換等を踏まえて、経営方針（生徒育成方針、教育課程編成・実施方針、生徒募集方針等）の明確化を図る。

## 11 その他

### (1) モデル校等による取組内容の実践・研究

上記1～10に示した取組を効果的に実施するため、モデル校等での実践を研究・改善し、広く発信することで、より効果的に全県的な実施へとつなげる。

### (2) 高等専門学校設置に関する知事部局との連携

本県では、知事部局において高等専門人材育成機関として高等専門学校の設置の検討を進めている。高等専門学校は高等学校と同様に中学校卒業後の進路先として位置付けられているものであり、特に職業系専門学科とも関連が深いものである。そのため、県立高等学校と高等専門学校が人材や技術の提供等を通じた連携を行うことで、それぞれの学びの充実につながり魅力を高めていけるよう、教育委員会として知事部局と十分に連携を図りながら、より良い新たな学びの場となるよう積極的に関わっていく。

---

<sup>26</sup> スクール・ポリシーと呼ばれる方針。育成を目指す資質・能力に関する方針であるグラデュエーション・ポリシー、教育課程の編成および実施に関する方針であるカリキュラム・ポリシー、入学者の受け入れに関する方針であるアドミッション・ポリシーの三つからなる。

## IV 将来を見据えた整理

「Ⅲ 取組の方向性」で示した生徒数減少への対応等に加えて、県立高等学校の将来を見据えて議論が必要なことを整理した。

### 1 県立高等学校と私学との関係について

県立高等学校と県内私立高等学校は本県の公教育の充実と発展をともに担っており、県立高等学校は必要に応じて新学科設置などの高等学校改革を実施し、県内私立高等学校は独自の建学の精神に基づいた特色ある教育により、社会の変化や生徒のニーズに応じた学びを提供している。

令和2年度から高等学校等就学支援金制度が拡充されたことにより、私立高等学校への経済的なハードルが低くなった。生徒に選ばれる魅力ある県立高等学校となるよう、今後ますます公私ともに切磋琢磨しながら学校づくりを進めていくことが求められる。

これまでから本県では、多くの生徒が学ぶ県立高等学校において、普通科や総合学科、職業系専門学科等、多様な学びを提供する役割を担い、生徒数の増減に対しては、県内私立高等学校の募集定員に配慮し、県立高等学校の募集定員を調整することで対応している。

今後、生徒数の減少が見込まれる中、これからの滋賀の高等学校教育について、募集定員の在り方も含めて公私が建設的に議論する定期的な協議の場の設置を検討する。

### 2 県立高等学校の学校規模について

現在の県立高等学校全日課程の44校は1学年当たり2学級(80人)から9学級(360人)(令和3年度滋賀県立高等学校第1学年募集定員)の学校規模となっている。今後10年から15年先の生徒数は減少傾向にあり、現在の規模を維持することが困難になることが予想される。

規模が大きい高等学校、小さい高等学校、それぞれにメリット・デメリットはあり、例えば、学校規模が大きいことは学校活力を生む原動力となり、規模が小さいことは、地域との連携など、学校の特色を生かしたきめ細かな取組がしやすいなど、それぞれに特徴がある。

生徒の立場からすれば、小規模な高等学校を魅力を感じる生徒もいれば、大規模な高等学校で学生生活を送ることを望む生徒もいる。規模の大小に関わらず、特色ある教育活動を展開することで、生徒たちが主体的かつ意欲的に学んでいけることが重要である。

そのため、地域の実態や需要等を考えた上で魅力づくりを進め、地域の実情に応じた様々な規模の高等学校において、何が学べるのかを明確にし、受け入れた生徒の力を伸ばす教育の充実を図る。

特に、小規模な高等学校については、専門的な学習や学校行事・部活動等、生徒がともに活動することでしか経験できない学びも大切であることから、そうした学びが充実するための仕組みづくりを検討する。

### 3 将来に向けた議論の必要性について

中学校等卒業者の99%が高等学校等へ進学しており、これまでから県立高等学校は、多様な生徒の生きる力を様々な教育活動により育む場となっている。また、地域の活性化や世代間交流に寄与する機能を有するなど、多面的な機能を発揮している場でもある。

今後、10年から15年先の生徒数の減少が見込まれる中、社会の変化や地域の状況も踏まえて、県立高等学校の多面的な機能をどのように発揮していくのか、魅力化に向けてどのように地域との協働を図っていくのかについて、市町をはじめ関係者との議論を進める。

例えば、規模が小さい複数の高等学校を一つの学校群の中にある大学のキャンパスのようにみなして、各高等学校それぞれを独自の特色を持った学びの場としたりするなど、地域の実情に応じた先進的な取組をモデル的に実施することで、将来に向けた魅力化の議論につなげていく。

また、県教育委員会が、県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方を示した上で、各学校の役割や特色を踏まえ、全県的な視野から地域ごとに多様な選択肢を提供するための魅力化の方向性を提示し、それをもとに、関係者の意見等を丁寧に聞きながら、各学校の魅力化を図っていく。

### 4 入学者選抜の在り方について

現行の県立全日制高等学校における入学者選抜は、推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜、特色選抜、一般選抜を実施し、中学生が自分に合った高等学校を主体的に選び受検することができるなど一定の役割を果たしてきている。

入学者選抜の在り方は、中学生にチャレンジする機会をどう与えるかという意味で、影響が大きいことから、時代の変化とともにどのような課題があるか整理し、入学者選抜の改善を図る。

具体的には、滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会において、各高等学校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から入学者選抜の在り方を検討していく。

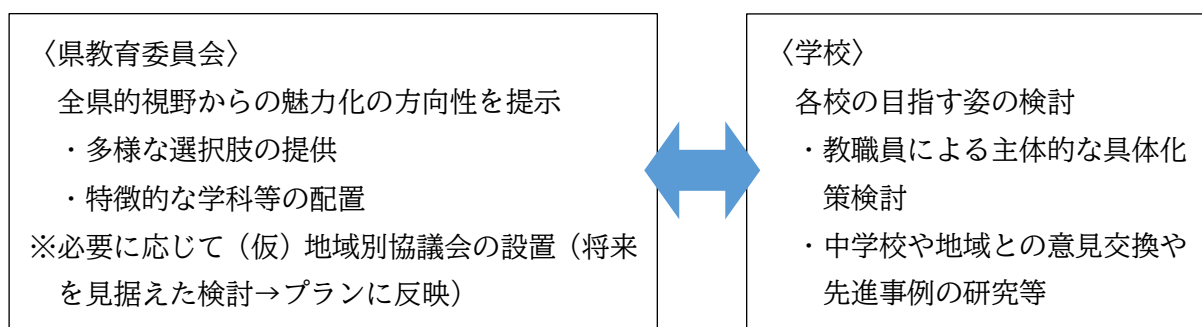
## V 今後の進め方

### 1 (仮) 魅力化プランの作成 (たたき台→意見聴取→案作成)

県教育委員会は、(仮) これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針に基づき、全県的視野から多様な選択肢の提供や特徴的な学科等の配置を示す(仮) 魅力化プランのたたき台を提示する。

各学校は、教職員による主体的な具体化策の検討や中学校や地域との意見交換や先進事例の研究等も踏まえて、目指す姿を検討する。

県教育委員会は必要に応じて(仮) 地域別協議会を設置し将来を見据えた検討を行う。



### 2 〈県教育委員会〉個別の実施計画作成

県教育委員会は、(仮) 魅力化プランに基づき実施可能と判断する対象校を選定し、個別の実施計画を作成する。

### 3 〈学校〉個別の実施計画に基づく具体的検討と経営方針策定・公表

各学校は、個別の実施計画に基づき、具体的な検討と経営方針(生徒育成方針、教育課程・実施方針、生徒募集方針等)を策定し公表する。

## これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針(案)について

### 1 今年度の検討の経過

#### ○検討委員会

令和3年10月26日 「これからの県立高等学校の在り方について」答申  
(令和2年6月から8回の会議と現地調査を含む2回の部会を開催し審議)

#### ○教育委員会

令和3年5月～11月 滋賀県立高等学校在り方検討委員会の結果概要報告、基本方針の検討(計4回)  
令和4年3月23日 これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針策定

#### ○教育・文化スポーツ常任委員会

令和3年5月～10月 これからの県立高校の在り方検討について(計4回)  
11月10日 (仮)これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針(原案)  
令和4年3月8日 県民政策コメント結果  
これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針(案)

#### ○意見聴取

令和3年3月～5月 中間まとめ(案)をもとに意見聴取(市町首長、市町教育長、県立学校校長等)  
8月～9月 答申(素案)をもとに意見聴取(市町首長、市町教育長、県立学校校長等)

#### ○県民政策コメント

令和3年11月24日から12月24日までの間に基本方針(原案)についての意見・情報の募集を行い、19者(団体・市町を含む)から83件の意見・情報があつた。

提出された意見・情報の項目	件数(計83件)
I はじめに	12
II これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方	2
III 取組の方向性	42
IV 将来を見据えた整理	21
V 今後の進め方	2
その他(各項目に分類できないもの)	4

### 2 全体スケジュール(予定)

令和4年度以降

#### ○(仮)魅力化プランの作成(たたき台→意見聴取→案作成)

- ・県教育委員会は、令和3年度中に策定予定の基本方針に基づき、全県的視野から多様な選択肢の提供や特徴的な学科等の配置を示す(仮)魅力化プランのたたき台を提示する。
- ・各学校は、教職員による主体的な具体化策の検討や中学校や地域との意見交換や先進事例の研究等も踏まえて、目指す姿を検討する。
- ・県教育委員会は必要に応じて(仮)地域別協議会を設置し将来を見据えた検討を行う。

#### ○〈県教育委員会〉個別の実施計画作成

- ・県教育委員会は、(仮)魅力化プランに基づき実施可能と判断する対象校を選定し、個別の実施計画を作成する。

「(仮) これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針(原案)」に対して  
提出された意見・情報とそれらに対する県の考え方

提出された意見・情報の一部は、その趣旨を損なわない範囲で内容を要約したものとなっています。

番号	頁	項目 No	意見・情報等(概要)	意見・情報等に関する考え方
<b>I はじめに</b>				
<b>1 背景と趣旨</b>				
1	1	-	SDGsの5つの目標があげられているが、それぞれの目標にはより詳しいターゲットが設定されているのに県立高校改革がそのどれに当てはまるのかよく分からない。特に、目標の「8.働きがいも経済成長も」「10.人や国の不平等をなくそう」「17.パートナーシップで目標を達成しよう」の中のどのターゲットが関連するのかよく分からないし、どこにも書かれていない。SDGsをあげるのなら、2019年に出された国連子どもの権利委員会の日本政府に対する勧告こそ意識すべきではないか。	SDGsの各目標のターゲットを限定するのではなく、理念を基本方針全体に浸透させていくことが大切であると考えており、原案通りとします。
<b>3 これまでの県立高等学校改革の主な取組</b>				
2	2	(3)	全県一区ができていてすごいと思う。スクールバスや時差通学等を導入しないと実現しないと思っていた。今はコロナ禍で自転車で通える高校を希望する生徒が多いかもしれない。	今後も多様な選択肢を提示できるよう、全県一区制度のもと、魅力と活力ある県立高校づくりを進めてまいります。
3	2	(3)	中学校の教職員の中には、全県一区制度について「学校格差が大きくなっている。特に湖南地区に生徒が集中しており、南部偏重の序列ができつつある。定員に満たない高校と集中する高校の差が大きい。」との意見があり参考にさせていただきたい。	本県では、中学生が自分に合った高校を主体的に選択できるようにするとともに、特色ある学校づくりを一層推進するため、平成18年度入学者選抜から県立普通科高校の6つの通学区域(大津、湖南、甲賀、湖東、湖北、湖西)を無くし、居住地による制限のない全県一区としています。 平成28年度に県教育委員会で制度の検証を行い、中学生、高校生とその保護者の9割以上が制度を肯定していることなどから制度を継続しており、さらに、今年度の滋賀県立高等学校在り方検討委員会の答申においても、全県一区制度のもとで各県立普通科高校の特色化・魅力化を一層推進するとされており、今後も制度を継続しながら魅力ある県立高校づくりを進めてまいります。
4	2 5 4	-	全てにおいて「よかった」という評価なのか。例えば、全県一区制度は、導入10年後の検証によって肯定的に評価されているが、それだけでよいのだろうか。普通科の受検倍率は高い高校と低い高校の差が大きくなり、中学校現場からは二極化の弊害について指摘されている。改革については、よかった面ばかりでなく、ねらいとは違ったマイナス面をどう改善していくのかを考える必要があるのではないかと。県教育委員会がやったことは全て間違いがなくよかったと考えるべきではなく、不十分なところや間違っていたことを反省することこそが、よりよい教育政策をつくっていくことになると思う。	これまで進めてきた県立高校改革を踏まえ、御意見を参考に、より一層魅力ある県立高校づくりを進めてまいります。



番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
<b>4 現行の県立高等学校再編計画の総括</b>				
5	5	(3)	各高校の取組や努力は評価するが、「在籍している県立高等学校に満足している生徒は82%あった。これらのことから、魅力ある県立高等学校づくりは一定進展している。」について、満足している生徒の割合を根拠にするなら、経年変化を見るべきだろう。1回の調査だけでは断定しづらい。また、毎年多くの生徒が不登校になっていたり、中途退学や進路変更している実態もある。まず、中途退学や進路変更がどのような理由によるものかを明らかにしなければ、魅力ある高校づくりは独りよがりのものになってしまう。全ての生徒が満足するというのは難しいが、少なくとも高校になじめなかった生徒にこそ意見を聞いた方が、有意義なものになるのではないか。	高校生を対象としたアンケート結果だけではなく、県立高校の校長を対象とした調査結果等も根拠に「魅力ある県立高等学校づくりは一定進展している」として総括しています。御意見については、今後の参考とします。
<b>5 県立高等学校を取り巻く現状と課題</b>				
6	8	(4)	高等養護学校に合格できなかった生徒が定員割れしている高校に入学することもある。高等養護学校では1学級8人で手厚い指導を受けられるのに対して、高校は1クラス40人のため、どうしても支援が必要な生徒に十分な指導が行き渡らない現実がある。	障害のある生徒と障害のない生徒がともに安心・安定した学校生活を送れるように、特別支援教育コーディネーターや特別支援教育支援員による教職員研修の充実、通級による指導の拡大等を進めてまいります。
7	7 5 9	-	子どもたちが苦しんでいる具体的な課題が抜けているのではないか。例えば、「高校生の自死」「中途退学、進路変更、不登校」「いじめ」「高校間格差」「ヤングケアラー」「体罰や厳しい校則指導」「性に関する問題」「外国にルーツを持つ子どもたちに対する配慮」が考えられる。	御意見については、P19「5目指す姿⑦」で整理し、P23「3多様な学習ニーズ等への対応」で具体的な取組を位置付けていますので、原案通りとします。
<b>6 将来の社会の姿</b>				
8	11	(3)	以下の文章を追加してはどうか。 「地域に避難所・ボランティアセンターとして、学校施設を開放したり、災害時の備蓄を保管したりする必要もある。また、遠地から通学をする生徒、教職員が帰宅困難になることも有り得るため、セミナーハウスなどの宿泊環境も平時から備える必要がある。さらに、災害時に、生徒、教職員による地域の災害ボランティア活動なども期待されるであろうから、平時から知識・技術を身に付ける必要もある。」	ここで記載する内容は、10～15年先の社会の姿として考えられることを整理しているため、原案通りとします。御意見については、今後の参考とします。
<b>7 高等学校への希望や期待</b>				
9	12	(1)	文武両道や部活動を楽しみたいという意見があり、部活動の活動日数を減らせば、部活動の加入率が上昇すると思う。	御意見については、今後の参考とします。
10	12	(1)	校舎のリニューアルの意見があり、二階建てではなく中二階にして、屋根裏を休憩室や自習室等に用いるとよいと思う。	御意見については、今後の参考とします。
11	12	(1)	高校生活の中で将来のことをじっくり考えたいという意見があり、夏休み等なら時間に余裕ができると思う。	御意見については、今後の参考とします。
12	14	(2)	一般的な教養を普通科、専門学科関係なく身に付くように指導してほしいという意見はしっかり受け止めてほしい。	全ての県立高校において、社会の形成者として必要な知識・技能と資質・能力等を育成する必要があることから、学科の特性に応じた学びを充実してまいります。



番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
<b>II これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方</b>				
<b>5 目指す姿</b>				
13	19	⑥	目指す姿⑥の「障害のある者となない者」は「障害のある生徒となない生徒」への修正をお願いする。	御意見を踏まえ、下記の通り修正、追記します。  【修正、追記前】 ⑥障害のある者となない者が互いに学び合い互いを尊重できる ◇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる
14	19	⑥	目指す姿⑥「障害のある者となない者が互いに学び合い互いを尊重できる」をしっかりと実現してほしい。教職員にも周知してほしい。	【修正、追記後】 ⑥障害のある <b>生徒</b> となない <b>生徒</b> が互いに学び合い互いを尊重できる ◇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる ◇ <b>障害のある生徒に対して必要な支援が提供されている</b>
<b>III 取組の方向性</b>				
<b>1 確かな学力の育成</b>				
15	22	(1)	滋賀では同和教育の伝統が大切にされてきた。誰一人取り残さないというSDGsの精神は、「しんどい子を中心にすえた仲間づくり」「分からんと言える学習集団づくり」の同和教育の考え方と一致する。誰もが豊かな教育を受けられ、なおかつ伸びる可能性のある生徒がどんどん才能を伸ばす、そんな教育の実現を希望する。	全ての生徒たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが重要だと考えています。御意見を参考にしながら、人と人の豊かなつながりの中で生徒一人ひとりの力を引き出し伸ばす教育をしっかりと展開してまいります。
16	22	(1)	平日の部活動に疲れて、帰宅後の家庭学習ができないという声がある。中学校から学習内容の専門性が高く難しくなる。平日の家庭学習に対する配慮も必要ではないか。以前は、土曜日の午前中に授業が行われていた。土曜日の午前中を授業ではなく部活動の時間にすることで、平日の部活動の時間削減が可能ではないか。また、地域のスポーツ教室等を活用することも考えられる。教職員の土曜日出勤は、長期休業中にまとめて休みを取ることで対応できる。これはまずは中学校から実施してはどうか。	御意見については、今後の参考とします。
17	22	(1)	教室について、海外では一人の先生に一つの教室があり、机と椅子が一体になっているときく。導入すれば便利なこともあると思う。	御意見については、今後の参考とします。
18	22	(1)	学習用に大学ノートが使われることが多いが、中学生用、高校生用の科目に応じた使いやすいノートがあってもいいと思う。	御意見については、今後の参考とします。
<b>2 キャリア教育の充実</b>				
19	23	(2)	子どもたちが、自分の将来を見据え、自分が目指すものは何なのか、社会の中でどのような役割を担いたいのか、何のために学ぶのかを、考え、気づくことはとても重要だと思う。そのために、普通科においても、職業体験や地元企業から講師を招いた授業といったキャリア教育を充実してほしい。	キャリア教育は、小中学校と高校、大学等の連続性を踏まえた「タテの連携」と、行政機関、地域住民、産業界、大学等と連携・協働した「ヨコの連携」で進めてまいります。

番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
20	23	(2)	生徒の働く意欲を後押しする考え方に立って、アルバイトを認めてはどうか。必ずしも中学を卒業するタイミングで、自分の将来を見据えている生徒ばかりではない。学校が地元企業と連携して、高校生でもできる軽作業を含む工場でのアルバイト等を勧めるのも良いと思う。社会に出てからアルバイト経験が役立つことは多々ある。大人に養われる側から経済を支える側になりつつあるということ認識させ、自立心を育むのに良いのではないか。	キャリア教育は、小中学校と高校、大学等の連続性を踏まえた「タテの連携」と、行政機関、地域住民、産業界、大学等と連携・協働した「ヨコの連携」を進めてまいります。御意見については、今後の参考とします。
21	23	(2)	地元企業等の地域の教育資源を活用したキャリア教育は、学校の一つの特色となり得るものであり、しっかり進めていただきたい。	地域、産業界、大学等と連携・協働した実践的な学びによるキャリア教育を図ってまいります。
22	23	(2)	将来的に地元に戻って地域に貢献する人材育成も、高校の役割の一つと考える。基本方針では、インターンシップやデュアルシステムの重要性は触れられているが、教育の中での連携・協働だけでなく、将来のUターンやふるさと回帰につなげ、地域に根付く人材育成の視点も触れるべきではないか。	御意見を踏まえ、下記の通り修正します。 【修正前】 行政機関、地域住民、産業界、大学等と連携・協働した… 【修正後】 <b>地域や社会の将来を担う人材育成も視野に入れ</b> 、行政機関、地域住民、産業界、大学等と連携・協働した…
23	22 23	-	近くに芸術系大学がある高校は積極的に大学との連携を図っていただきたい。	大学等との連携は重要と考えており、御意見については、今後の参考とします。
<b>3 多様な学習ニーズ等への対応</b>				
24	23	(1)	高校における特別な教育的支援が必要な生徒数の増加への中長期的な対応として、以下のようなが求められるのではないかとと思う。 ①高校教員に、特別支援学校高等部等での学習活動や学習支援について研修を行う機会を増やす。 ②特別支援学校での勤務経験や特別支援学校の教員免許を有する教職員を、高校へ一定数配置できるよう検討する。 ③近隣の高校、高等養護学校、養護学校高等部が相互連携を深める。	教職員の研修や特別支援学校との連携を充実させ、御意見を参考にしながら、特別な教育的支援を必要とする生徒への指導の充実を図ってまいります。
25	23	(1)	自閉症・情緒障害のある生徒は、中学校までは特別支援学級で手厚く支援を受けてきているが、高校では手厚い支援が減ってしまう。県内には愛知高校が通級指導を行っていると思うが、もっと増やしていくべきではないか。 また、肢体不自由や身体虚弱等の生徒も一般の高校に通えるよう、支援や配慮を検討していくべきではないか。インクルーシブ教育の視点も踏まえ、特別支援の視点をもう少し重視してほしい。	御意見を参考にしながら、障害のある生徒と障害のない生徒がともに安心・安定した学校生活を送れるよう取り組んでまいります。 また、御意見を踏まえ、下記の通り追記します。 P19「5目指す姿⑥」 【追記前】 ◇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる 【追記後】 ◇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる <b>◇障害のある生徒に対して必要な支援が提供されている</b>

番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
26	23	(1)	特別な教育的支援を必要とする生徒については増加傾向であり、また状況も多様化していることから、それぞれの生徒の特性に応じて適切な支援がなされるよう、特別支援教育課等の関係課とも十分連携をとっていただきたい。	行政機関との連携をしっかりとりながら、支援が必要な生徒への指導の充実を図ってまいります。
27	23	(1)	中学校の特別支援学級から県立高校へ進学する生徒や支援が必要な生徒等が増加している。充実した学校生活を送れるように、支援員等の増員をお願いする。	障害のある生徒と障害のない生徒がともに安心・安定した学校生活を送れる取組を進めることとしており、御意見を参考にしながら、支援の充実を図ってまいります。
28	23	(2)	海外では移民が多いため、能力があっても語学に不自由している生徒は別の学級で語学勉強をして、言語が十分に理解できる状態になると普通学級に移るという取組をしている。高校においても、今後はこれらの取組が必要になると思う。	御意見を参考にしながら、日本語指導が必要な生徒の教育の充実を図ってまいります。
29	23	(2)	日本語指導が必要な生徒等への支援の充実には、ぜひ多くの学校に広げてほしい。	御意見を参考にしながら、日本語指導が必要な生徒の教育の充実を図ってまいります。
30	23	(5)	秋季入学を導入してはどうか。学費を用意するアルバイトの時間や志望校入学のための勉強時間も確保できる。	学校教育法施行規則で「学年は、四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる」と定めがあり、国において議論されるものと考えます。
31	23	-	地域社会の視点も含めた県立高校の在り方を考えるのであれば、地域で暮らす障害のある生徒や外国人生徒がともに学び、楽しい高校生活を送れるような学校を実現してほしい。	御意見を参考にしながら、多様な生徒に対応した取組をしっかりと進めてまいります。
32	23	-	ここに記載の取組が、しっかりと実行されることを期待する。	御意見を参考にしながら、多様な生徒に対応した取組をしっかりと進めてまいります。
33	23	-	誰のための基本方針かという視点で原案を見ると、表向きは「全ての子ども」のために策定していることをアピールしているが、あちこちに「やる気を持てる、目標を設定できる一定の条件を満たす子ども」のためであると思えない原案となっている。厳しい環境にある子どもたちは、やはり最初に切られていくのだと感じた。原案の中には、いくつか「多様・多様性」という文言があるが、これらは「つけたし」あるいは「方針の一項目」というレベルだと感じる。	御意見を参考にしながら、多様な生徒への対応をしっかりと進めてまいります。
34	23	-	子どもの命が毎年奪われていっていることを一番に踏まえた原案、子どもが未来に希望を持てることを踏まえた原案にしてほしい。この数十年間、多様性が尊重されず、認め合えず、突然「爆発」してしまうことで、自死も含めて命が軽んじられる出来事が当たり前のように起こるようになり、私たちの感覚もどこか麻痺してきているところがあると思う。 子どもたちが、色んな「多様性」を超えて地球で暮らす仲間であることを感じ取れる学校にすることが、命という一番大切なものを守り、前向きに生きていくための最優先事項だと思う。 「この意見はごもっともだが、高校の在り方は別問題」という感覚を持たれるとすれば残念に思う。子どもたちの命と未来がかかっていることを踏まえて、しっかりと検討してほしい。	御意見を参考にしながら、生徒が多様性を尊重し、協働する力を身に付けられるよう取り組んでまいります。

番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
<b>4 普通科の特色化（普通科系専門学科を含む）</b>				
35	24	(1)	コース等の普通科の特色化は、かなり早くから取り組まれており、それなりの成果や課題があると思うが、どのように総括されているのかわからない。普通科の特色化は、本当に子どもたちのニーズに合っているのか。	コースは、将来の進路への動機づけを強め、個性を生かし、目的意識や意欲をもって学習することができるよう設置するものと考えています。今後も、普通科高校を中心として、更なる特色化、魅力化を継続して進めてまいります。
36	24	(1)	大学受験などを目指す特進クラスを設けてもいいのではないかと。	御意見を参考にしながら、生徒のニーズに対応した特色化に取り組んでまいります。
37	25	(4)	高校の特色のPRについて、SNSに頼りすぎると危険を伴うことにならないか。	御意見を参考にしながら、ホームページや動画、SNS等の発信の充実を図るなど、多様な手法を活用しながら、様々な機会をとらえてPRに取り組んでまいります。
38	25	(4)	中学3年生には、高校へ進学した先輩たち（卒業生）の生の声を聞く仕組みがあればよいと思う。パンフレットやホームページを見れば学科や部活動等の情報は入手できるが、生徒目線からの高校紹介や体験談等の話を聞くことができる、さらに志望校も選択しやすくなるのではないかと。高校生にとっても、「人に伝える」スキルの向上を図ることができると思う。	<p>在校生が自分の言葉で学校の特徴を紹介する学校説明会等では、参加者には実感としてそれぞれの学校の魅力や特色ある学びが伝わっていると考えています。御意見を踏まえ、下記の通り修正します。</p> <p>【修正前】 その際は、ホームページや動画、SNS等の発信の充実を図るなど、…</p> <p>【修正後】 その際は、<b>高校生による在籍校紹介の取組</b>やホームページ、動画、SNS等の発信の充実を図るなど、…</p>
<b>5 職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化</b>				
39	27	(1)	工業系の高校では、県内企業との連携を密にして中長期間にわたって実践的な技術指導を受けられるインターンシップを行う必要がある。派遣先企業と生徒がコミュニケーションをとれる程度までの期間で研修するのが望ましいと思う。研修の中で、企業の方々から社会人としての知識・常識等を学び、その上で技術・知識の習得を図っていく。企業としても、人材育成の一部になり、将来的に採用を見込める人材が出てくる可能性もある。これらの取組を進めるためには、学校、企業ともに専従の職員を配備し、互いに計画を持って取り組む必要がある。	中長期の実践型インターンシップを進めることとしており、御意見を参考に、企業との更なる連携を図ってまいります。
40	27	(1)	複数の工業高校の生徒が合同で参加するインターンシップも、社会人を育成する視点から実践的なものになるのではないかと。	御意見を参考にしながら、キャリア教育の充実を図ってまいります。
<b>6 定時制/通信制の役割への対応</b>				
41	28	(1)	全日制高校の生徒が、定時制や通信制の高校に全日制高校で取得した単位を持って転入できることを周知すれば、不登校やいじめ問題の対策にもなるのではないかと。	定時制課程や通信制課程では、不登校や中途退学の経験のある生徒をはじめとする多様な生徒が入学しています。御意見については、今後の参考とします。



番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
<b>7 生徒数減少への対応</b>				
42	28	(1)	<p>特色ある高校づくりに反対するわけではないが、特色ばかり色濃くしてしまうと地域の高校への受検者がどんどん減り、生徒数が少ない地域の県立高校の募集定員はますます減少してしまうのではないかと。</p> <p>各高校が強みを持つことも大切だが、生徒が地元に残りたいと思うような高校づくりや、家庭の状況から遠くの高校に通うことができない生徒にとって受け皿となる地域の高校は、少なくとも各市町に残していただきたい。</p>	<p>地域と連携・協働した学校づくりを進めるなど、学校規模の大小に関わらず、特色ある教育活動を展開し、生徒たちが主体的かつ意欲的に学んでいけるよう、地域の実態や需要等を考えた上で魅力づくりを進めてまいります。</p>
43	28	(1)	<p>生徒数の減少により規模が小さくなる高校では、これまで以上に「社会に開かれた教育課程」の実現が重要となる。地域とともに目指す姿を具体化するために、県立高校と市町との意見交換の場の設定や、コーディネーターの配置、コンソーシアムの構築、学校運営協議会の設置について期待している。地域との連携・協働の中で、生徒が卒業後の進路のイメージを具体的に持ちやすいような特色あるカリキュラムを取り入れられたい。</p>	<p>地域との連携においては、地域課題の解決に向けた探究的な学び等、特色あるカリキュラムに取り組んでまいります。</p>
44	28	(2)	<p>1学年3学級を4学級展開で学級編成している高校には、教職員数増の配慮があれば助かる。教職員の授業時間数が増えることを覚悟してでも、その方が生徒のためになることから実施している取組である。</p>	<p>多様な生徒に対する教育の充実に向け、各校の取組をできる限り支援してまいります。</p>
45	29	(3)	<p>地域の小中学校との連携や、市町のまちづくりと連携した特徴的な学科等の設置や、行政や地域と連携したPRなどの事業が検討されていることは、地域人材の育成に資するものとして、積極的な取組を期待するものである。</p> <p>また、総合的な探究の時間等を活用して、地域課題の研究を、行政、地域、産業界等と連携して実施していくことで地域連携が深化し、高校の魅力の磨き上げにつながるものと考えている。</p>	<p>御意見を参考にしながら、地域との連携が生徒にとって魅力ある学びとなるよう取組を進めてまいります。</p>
46	29	(5)	<p>少子化での生徒の確保に対し、学校の魅力・活力の向上は大きな課題であるが、現実的には通いやすさも大きな要素である。鉄道や地域公共交通の充実、利便性向上は学校選択の判断材料の一つであり、学校間連携や地域連携を進めていくのであれば、交通事業者等への働きかけや協力を求めていくことも必要ではないかと。</p>	<p>御意見を参考にしながら、地域連携や学校間連携に向けた取組を進めてまいります。</p>
<b>9 生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成</b>				
47	30	(1)	<p>教職員の休みを増やしたり、定時帰宅を推進することで、人材確保につながると思う。</p>	<p>教職員のワーク・ライフ・バランスの実現と仕事のやりがいを高めることで、教職員を志望する優秀な人材確保の取組を進めてまいります。</p>
48	30	(2)	<p>教員免許更新制度の導入前は、教員が地域の人権講習会や地区懇談会に出席することが決められていたようだが今はなくなった。資質・能力の向上を目指す研修やICTの研修も必要だが、地域との交流の場も必要だと思う。</p>	<p>多様な生徒一人ひとりに適切に対応できるよう、教職員に必要な知識やスキルを習得するための研修の充実を図ることとしており、御意見を参考にしながら、更なる研修の充実に努めてまいります。</p>

番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
<b>10 持続可能な推進体制の構築</b>				
49	30	(1)	地域と連携・協働した学校づくりを推進するため、学校運営協議会等の設置などを進めるとのことだが、学校運営協議会等を設置するには、地域住民の声が届くような組織づくりをお願いしたい。	学校運営協議会は、学校と保護者や地域の方々がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える仕組みであり、御意見を参考に、学校運営協議会の充実に努めてまいります。
50	30	(1)	「学校運営協議会の設置」を「学校運営協議会やコミュニティ・スクールの設置」に変更してはどうか。小中学校では、コミュニティ・スクールが増えているが、高校も地域との連携・協働を進める上で、コミュニティ・スクールを導入してもいいと思う。	コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を設置している学校のことであり、原案通りとします。
51	30	(2)	SDGsのジェンダー平等があるが、教育の中身の問題以前に、県立高校における女性の校長が少ない。管理職にもっと女性を増やすことも大切な課題だと思う。	「次世代育成支援および女性職員の活躍推進のための取組方針」に基づいて、女性教職員の管理職等への登用を積極的に進めます。
52	30	(2)	部活動顧問制度が子育て中の核家族世帯に与える深刻な影響をどれくらい把握しているのか。土日も部活動に従事する教職員の労働時間は平日の残業も合わせると大変長くなる。長時間労働の原因は部活動だけではないが、部活動がなければ休める土日もある。本人がよければ、どれだけ部活動をさせても良いのか。部活動も学校の教育活動であり校長が許可して活動するものならば、労務管理に責任が発生すべきではないか。県立高校の特色云々よりも、まず適正な労務管理を求める。	御意見を参考にしながら、長時間労働を解消するため、教職員の意識改革と管理職のマネジメント能力の向上等、働き方改革に取り組みます。
53	31	(3)	中高の滑らかな接続を目的とした連携が行われているケースもあるが、中学生が目的を持って高校を選ぶことができることをねらいとした中高連携の推進が求められる。高校がどのような生徒を求めるのか、3年間の教育によってどのような生徒を育てるのかを明確に示していただきたい。	各県立高校は教職員の主体的な検討や地域との意見交換等を踏まえて、経営方針（生徒育成方針、教育課程編成・実施方針、生徒募集方針等）の明確化を図ってまいります。
54	30 ～ 31	-	P T Aや教育振興会、後援会等の組織や資金使用なども、見直す必要があり得ると思う。今後、検討をお願いする。	御意見については、今後の参考とします。

番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
11 その他（高等専門学校設置）				
55	31	(2)	<p>知人の子どもが県外の高等専門学校に進学し、下宿しながら自分が学びたいことを思う存分学び生き生きと学生生活を送っている。県内にも高等専門学校が設置されれば、滋賀の子どもたちの夢も大きく広がると思う。県立高校と高等専門学校の生徒が、色々な場で交流を持ち学生生活を送ることも大切だと思う。</p>	<p>御意見を踏まえ、下記の通り修正します。</p> <p>P18「4 魅力化の視点」</p> <p>【修正前】 「I-6 将来の社会の姿」で整理した多様な価値観が尊重される多様性のある社会や人口減少社会への対応等を、小中学校との連携や小中学校での学びを十分生かすとともに、高等学校卒業後の進路となる大学や社会等とも連携・協働しながら、これらの連続性の中で捉え、ICTも活用し、持続可能な形で実施する。</p> <p>【修正後】 「I-6 将来の社会の姿」で整理した多様な価値観が尊重される多様性のある社会や人口減少社会等への対応を踏まえて、小中学校での学びを十分生かすとともに、高等学校卒業後の進路となる大学や社会、および県内に設置される高等専門学校等とのつながりを大切にしながら、ICTも活用し、持続可能な形で魅力化を図る。</p> <p>P31「11その他」</p> <p>【修正前】 高等専門学校は高等学校と同様に中学校卒業後の進路先として位置づけられているものであり、特に職業系専門学科とも関連が深いものであるため、高等専門学校の設置に関しては、教育委員会として、知事部局と十分に連携を図りながら、…</p> <p>【修正後】 高等専門学校は高等学校と同様に中学校卒業後の進路先として位置づけられているものであり、特に職業系専門学科とも関連が深いものである。そのため、県立高等学校と高等専門学校が人材や技術の提供等を通じた連携を行うことで、それぞれの学びの充実につながり魅力を高めていけるよう、教育委員会として知事部局と十分に連携を図りながら、…</p>
56	31	(2)	<p>高等専門学校の開設について、公立大学法人滋賀県立大学が設置主体となる方針が示された。例年、一定数の生徒が高等専門学校を志願していることから、生徒・保護者の関心は高いと思われる。立地場所等の詳細について、十分にリサーチした上で検討をお願いしたい。</p>	<p>御意見については、今後の参考とします。</p>
IV 将来を見据えた整理				
1 県立高等学校と私学との関係について				
57	32	-	<p>私立高等学校への経済的なハードルが低くなったとあるが、必要な費用の差はまだ大きい。中学生保護者の88%が県立高校に進学させたいと考えているが、私立高校と公立高校の募集定員の割合は、2004年（平成16年）では私立高校の割合は13.7%だったが、2021年（令和3年）には23.8%まで増えている。これ以上、私立高校の割合を増やすべきではない。</p>	<p>今後、生徒数の減少が見込まれる中、これからの滋賀の高校教育について、募集定員の在り方も含めて公私が建設的に議論する定期的な協議の場を設置していく必要があると考えています。御意見については、今後の参考とします。</p>

番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
58	32	-	「これからの滋賀の高等学校教育について、募集定員の在り方も含めて公私が建設的に議論する定期的な協議の場」については、運営についても公私で十分に協議いただきたい。 また、募集定員については、生徒の減少が見込まれる中、公私で課題を共有し共通の認識を持って対応していくことが必要であるが、公私で比率を決めて、生徒数の減少に合わせて定員の減少を分かち合うことは、私学の実態から適切でないとする。	今後、生徒数の減少が見込まれる中、これからの滋賀の高校教育について、募集定員の在り方も含めて公私が建設的に議論する定期的な協議の場を設置していく必要があると考えています。御意見については、今後の参考とします。
59	32	-	市内の中学校から県立高校への進学割合が低下しており、中学校等卒業後の選択肢が増えているという見方ができる一方で、生徒に県立高校の魅力が十分伝わっていないことが伺える。県立高校の在り方について強い危機感を持っている。	県立高校への進学割合が最も高いものの、近年、私学や通信制高校を含めて中学校等卒業後の進路先が多様化しています。生徒に選ばれる魅力ある県立高校づくりをより一層進めてまいります。
<b>2 県立高等学校の学校規模について</b>				
60	32	-	一部の県立高校において、募集定員減に伴う小規模化が進んでいる。社会性や豊かな人間性を育むためには、集団の中での学ぶことができる環境が必要であると考えられることから、適正規模として1学年4学級程度の学校規模を確保していただき学校の活力向上を図っていただきたい。	地域の実情に応じた様々な規模の県立高校において、何が学べるのかを明確にし、受け入れた生徒の力を伸ばす教育の充実を図ってまいります。
<b>3 将来に向けた議論の必要性について</b>				
61	33	-	平成23年度の高校再編の原案では分校の案が出たことがあった。〇〇高校の分校になるというのは抵抗があると思うが、〇〇高校△△キャンパス、□□キャンパスなら同位のイメージがあり、系列により高校の設置場所が異なるというイメージになると思う。	地域の実情に応じた魅力化の先進的な事例として提示したものであり、御意見については、今後の参考とします。
62	33	-	県教育委員会が高校の魅力化の方向性を提示するにあたり、全県的な視野に立って問題を標準化することなく、地域の事情や特徴を十分に加味して議論いただきたい。	地域の実態や需要等を考えた上で魅力づくりを進める必要があると考えており、地域の関係者の意見等をしっかり聞きながら、各校の魅力化を図ってまいります。
63	33	-	滋賀県では、これまで極端な統廃合は行わず、地域の要望に耳を傾け、地域との連携を進めてきたと思う。今後も生徒数の減少に安易な統廃合で対応することのないように要望する。	学校規模の大小に関わらず、特色ある教育活動を展開することで、生徒たちが主体的かつ意欲的に学んでいけることが重要だと考えています。地域の実態や需要等を考えた上で魅力づくりを進め、地域の実情に応じた様々な規模の高校において、何が学べるのかを明確にし、受け入れた生徒の力を伸ばす教育の充実を図ってまいります。
<b>4 入学者選抜の在り方について</b>				
64	33	-	今までどおりの入試でよいと思うが、中学校から推薦された生徒は、全て合格にするとよいと思う。推薦してもらったのに不合格では、生徒は心を傷つける。一般選抜までに気持ちを切り替えるには、時間が足りないと思う。	入学者選抜について、滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会において、各高校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から検討していく必要があると考えています。
65	33	-	中学校の教職員の中には、「特色選抜は廃止して欲しい。塾で特殊なトレーニングをした生徒しか合格できない制度になっている。倍率が高すぎる。」という意見があり参考にしていきたい。	入学者選抜について、滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会において、各高校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から検討していく必要があると考えています。



番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
66	33	-	受検倍率が、高校によっては5倍にもなる特色選抜を実施する必要性を感じない。いわゆる成績上位の生徒は、2段階で受検できるメリットがあるのかもしれないが、そうではない多くの生徒にとっては挫折を味わうだけのものであり早急に廃止すべきだと思う。	入学者選抜について、滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会において、各高校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から検討していく必要があると考えています。
67	33	-	県内高校生の21%が在籍する私学が生徒にとって進路の選択肢となっていることを踏まえ、公私全体でその進路を保障することを基本に、私学も含めた入試制度という視点を持って入学者選抜方法を検討いただきたい。特に、推薦・特色選抜や二次選抜については、その実態を踏まえ、中学校や私学関係者の意見を聞いて見直していただきたい。	入学者選抜について、滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会において、各高校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から検討していく必要があると考えています。
68	33	-	複数の選抜方式により異なる入試の機会が受検生に与えられていることにより、受検生の能力が多面的に評価され、また再挑戦の機会が保障されているメリットがある。一方で、入試事務の煩雑さや長期化というデメリットも生じている。それぞれの選抜の目的、方法が適切なものであるかについては検証を進めていただきたい。	入学者選抜について、滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会において、各高校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から検討していく必要があると考えています。
69	33	-	推薦選抜の必要性については私学との関係もあり仕方ないことだと思うが、一般選抜は全ての高校が同一のため、普通科より専門高校が定員割れが生じやすい。推薦選抜の代わりに、前期（専門学科・総合学科（体育科や理数科も含む））、後期（普通科）の一般選抜を2回実施すれば、専門学科の定員割れも防ぐことができるのではないかと。	入学者選抜について、滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会において、各高校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から検討していく必要があると考えています。
70	33	-	いわゆる「点数によるランク付け」の入試制度が変わらない限り、高校の特色等によって高校を選べる生徒は成績上位者だけで、多くの生徒は点数（成績）のみで選ばざるを得ない現状は続く。また、ランクを落として高校受検せざるを得ない生徒たちが、どのような高校生活を送るのかという視点を決して忘れてはならないと思う。	入学者選抜について、滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会において、各高校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から検討していく必要があると考えています。
71	33	-	学力検査問題がたいへん難しい。3年間、基礎基本を大切にしている中学校での教科指導の内容とのギャップが大きすぎる。3年間、まじめに学習に取り組んできたが勉強が苦手な子どもたちにとって、中学校での勉強の意味を見出せないのではないかと。	入学者選抜について、滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会において、各高校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から検討していく必要があると考えています。
72	33	-	保護者へのアンケートでは、88%が子どもを県立高校に進学させたいと考えているので、60点以上を満たしていればどこかの県立高校に入学できるようにするとよい。	入学者選抜について、滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会において、各高校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から検討していく必要があると考えています。
73	33	-	県内の外国人人口は増加の傾向にある。その子どもたちは高校教育を希望しているが、学習言語に大きな壁がある。まず、高校教育を必要とする外国人生徒を受け入れる入試システムが必要で、大阪府・兵庫県・奈良県のように「枠」を設ける必要があるのではないかと思う。	現行の入学者選抜では一定の配慮を行っています。滋賀県立高等学校入学者選抜方法等改善協議会において、様々な視点から入学者選抜の在り方を検討してまいりたいと考えています。

番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
74	33	-	SDGsの目標の10番目「人や国の不平等をなくそう」を掲げるのであれば、日本語の習得が不十分な外国人生徒の高校入試における配慮事項を、さらに拡大するようお願いしたい。	現行の入学選抜では一定の配慮を行っています。滋賀県立高等学校入学選抜方法等改善協議会において、様々な視点から入学選抜の在り方を検討してまいりたいと考えています。
75	33	-	目指す姿に「生徒が多様性を尊重し世界につながり活躍するための力をつけることができる」をあげるなら、外国人生徒にとって大変狭き門になっている入学選抜の現状を見直し、外国人枠等の設置を積極的に検討してほしい。	現行の入学選抜では一定の配慮を行っています。滋賀県立高等学校入学選抜方法等改善協議会において、様々な視点から入学選抜の在り方を検討してまいりたいと考えています。
76	33	-	知的障害のある生徒の評定の仕方について、通常、文章で評定をしている生徒に対し、入学選抜では数値で評定することに戸惑いがある。また、入学後の支援の方法についても危惧する。	入学選抜について、滋賀県立高等学校入学選抜方法等改善協議会において、各高校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から検討していく必要があると考えています。入学後の支援については、障害等により学びにくさのある生徒が、安全安心に充実した学校生活を送れるよう支援の充実に努めてまいります。
77	33	-	合理的配慮が必要な生徒が増える中、入学選抜の在り方の柔軟性は必要である。基本方針に書いてあるように、日程や検査時間、配慮については、どの生徒も受けたい高校を受検できるように工夫していただきたい。	入学選抜について、滋賀県立高等学校入学選抜方法等改善協議会において、各高校が求める生徒像や卒業後の姿、教職員の働き方改革の観点等も踏まえて、様々な視点から検討していく必要があると考えています。入学後の支援については、障害等により学びにくさのある生徒が、安全安心に充実した学校生活を送れるよう支援の充実に努めてまいります。
<b>V 今後の進め方</b>				
<b>1 (仮) 魅力化プランの作成 (たたき台→意見聴取→案作成)</b>				
78	34	-	高校や中学校では、この大事な内容についてパブコメが行われていることを知らない教職員がたくさんいる。「滋賀県立高等学校在り方検討委員会のメンバーには、学識経験者、PTA、校長、企業、市町教育委員会、公募委員が入っているの」という説明が返ってくるのだが、まず子どもに一番近い担任等の現場の教員が入っていることが大切だと思う。 全ての子どものためであるとなれば、広く教職員にこそパブコメで意見を求めることが最も優先すべき手順だと思う。知らされていないことに何らかの意図を感じる。今後もこのような手順で進められるなら非常に危機感を感じる。	県民政策コメントの実施にあたっては、学校も含めて広く依頼しています。今後も、できるだけ現場の教職員の声を聞きながら、魅力化を進めてまいります。
79	34	-	基本方針を教職員や保護者・県民に周知し、ぜひその中身を実現してほしい。いくら素晴らしい基本方針が作られても、現場の教職員があまり理解できず絵にかいた餅になってしまうのであれば残念でならない。	基本方針は令和3年度末に策定する予定としており、策定後は広く県民に公表し、その実現に向けて取組を進めてまいります。
<b>その他 (各項目に分類できないもの)</b>				
80	-	-	生徒にとって、毎日着る制服は高校を選ぶ上で重要な選択要素となる。各校で統一した制服が一般的だが、「制服を選択できる」というスタイルもよいと思う。高校のモチーフのみを統一した2種類以上の制服を提示し、入学する生徒はどれを選択してもよい仕組みにすると、「統一感を残しつつ選ぶ楽しみ」を持たせることができる。2着以上そろえた生徒は、日によって制服を選ぶ楽しみができ、通学が惰性ではなくなってよいかと思う。	制服の導入や変更等は、各校が主体となって決定しています。御意見については、今後の参考とします。

番号	頁	項目 No	意見・情報等（概要）	意見・情報等に関する考え方
81	-	-	制服はいらないのではないか。	制服の導入や変更等は、各校が主体となって決定しています。御意見については、今後の参考とします。
82	-	-	全国的にオートバイの三ない運動が展開されているが、高校生とオートバイの関わりを少し緩和してはどうか。オートバイは交通手段として社会的に役立つ乗り物で、正しい知識を持って関わらせることが大切だと思う。 工業高校では、運動会や文化祭等の準備で、操縦資格を取った生徒が重機を扱っている。資格や免許を取得できる以上、正しい知識と技術が備わっていれば、オートバイでも重機でも安全に扱うことができると考える。	御意見については、今後の参考とします。
83	-	-	体罰や校則で子どもたちをコントロールしようというのは教育といえるだろうか。東京の世田谷区の校則のない中学校や通信制高校によっては、服装や髪形の規制がないことを聞いている。魅力ある学校とは、学力やスポーツだけでなく、こうしたストレスの少ない学校なのではないだろうか。	御意見を参考にしながら、魅力ある学校づくりに努めてまいります。



# これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針（案）

## 概要

令和4年3月  
滋賀県教育委員会

**背景** 〇人口減少、少子高齢化、グローバル化、情報化、技術革新の進展などの急速な社会情勢の変化への対応  
**策定趣旨** 〇概ね10から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について、全県的視野で基本的な考え方を示す  
**対象期間** 〇令和4年度から令和13年度の10年間



### これまでの主な県立高等学校改革

- H18 県立普通科高校通学区全域単一区制
- H24 県立高校再編計画策定

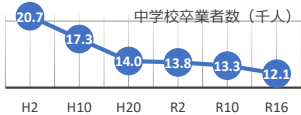
### 現行再編計画の総括

- 〇統合新校設置（長浜北・彦根翔西館）
  - ・学校統合により地域全体の学校活力向上
  - ・社会的の涵養、部活動の活性化
- 〇総合単位制高校設置、職業系専門学科改編等
  - ・不登校傾向が改善し卒業
- 〇全県一区制度のもと、国や県の指定事業等の活用や地域、大学等との連携による魅力ある学校づくりの一定の進展
- 普通科高校や人口減少地域の学校の更なる魅力化、発信力の強化が必要
- 計画策定過程で地域との双方向の議論が必要

### 県立高等学校を取り巻く現状と課題

#### ◆生徒数の減少

- ・H2、3卒のピークから▲7,000人34%減
- ・R16、3卒は更に▲1,700人 H2、3卒から42%減



#### ◆社会情勢の変化

- ・人口減少と少子高齢化
- ・グローバル化の進展
- ・第4次産業革命とSociety5.0
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大

#### ◆国の動き

- ・学習指導要領改訂：社会に関われた教育課程、主体的・対話的で深い学び
- ・新時代に対応した高等学校教育の在り方 普通科改革 等

#### ◆特別な教育的支援が必要な生徒の増加

- ・中学校の特別支援学級から高校へ進学する生徒増加（H20(13%)→H30(54%)）
- ・高校で特別な教育的支援が必要な生徒の割合は増加傾向（H22(2%)→R1(5%)）

### 将来の社会の姿

- ◇人口減少と高齢化の更なる進行
- ◇第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現
- ◇コロナ禍を経た生活様式の変化
- ◇大規模災害などの発生リスク
- ◇持続可能な社会の実現（SDGs）
- ◇多様な価値観が尊重される社会

想像はできるが予測できないことが起こりうる

### 高等学校への希望や期待

～アンケートや意見聴取から～

#### ◇生徒の立場から <中高生7,688人回答> <大学生等>

- ・文武両道に励みたい
- ・将来のことをじっくり考えたい
- ・校舎をリニューアルしてほしい
- ・生徒や先生が団結できる行事があるとよい
- ・インターネットを活用した授業を増やしてほしい 等

- 〇（県立高校1、2年生）
- 〇在籍している高校の満足度（全日制）
  - 満足82%（友人関係、部活動、授業）
  - 不満18%（授業、校風、施設・設備）

#### ◇保護者の立場から <保護者6,894人回答>

- ・子供の可能性を上げてやりたい
- ・基礎から学べるようにしてほしい
- ・学力向上だけでなく、人間性を高めてほしい
- ・オンライン授業等に力を入れてほしい 等

- 〇（中学1、2年生保護者）
- 〇子供に進学させたい高校
  - 県立高校88% 県内私立高校4%
- 〇高校に期待すること
  - 自分の進路希望や興味・関心等に応じた科目選択ができる63%

#### ◇地域社会の視点 <市長会、町村会、市町教委等>

- ・地域活性化に貢献する生徒を育ててほしい
- ・地域にとって高校の存在は大きい
- ・在り方検討で高校再編とせず、地域の声を聴いてほしい 等

#### ◇産業界の視点 <県内企業関係者等>

- ・専門的に教育して、高校卒業してすぐに社会に役立つ人材を育ててほしい
- ・企業等と連携することが必要 等

#### ◇教職員の立場から <中学校・高校管理職、中堅教諭等>

- ・人間性を高めるため、授業はもちろん、部活動や学校行事も大切に、いろいろな経験ができる教育活動を工夫したい
- ・一定の規模で教員数も充実した状況が必要 等

#### ◇卒業後の進学先の視点 <大学、短大、専修学校等>

- ・ディスカッションをする際に、根拠のある意見を述べる力の育成が必要
- ・大学に進学を希望する際、自身の関心や志向を見つめなおして学問と接続していくことが必要
- ・職業系専門学科では現場体験など実体験の機会を増やし、職業へのあこがれを育むことが重要 等

#### ◇その他学校関係者の視点 <スクールカウンセラー、塾等>

- ・対人不安の強い生徒たちが同じ教室で学ぶことの難しさが、先生方が様々なスキルを身に付けてるよう支援が必要
- ・中学生にとって高校に触れるという体験は大きく、オープンスクールのように直接情報を届けることが大事 等

### これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本的な考え方

<b>本県教育の教育理念</b>	未来を拓く心豊かでたくましい人づくり	<b>育成すべき生徒像</b>	生きる力（自立する力・伝える力・協働する力・創造する力等）がある	<b>高等学校の役割</b>	・生きる力を育む場 ・好奇心や探究心を更に発展させる場 ・「答えを見つける」教育から「課題を見つけて解決に向けて考え行動する」教育の場へ
------------------	--------------------	-----------------	----------------------------------	----------------	--

**魅力化の視点** 〇多様性のある社会や人口減少社会等への対応を踏まえて、小・中・高・大・社会・高専のつながりを大切にして、ICTを活用し、持続可能な形で魅力化を図る  
〇森・川・里・湖が水系でつながり、近江の心が根付いた「滋賀」ならではの学び、それぞれの県立高校でその学びを地域とともに推進する

### 目指す姿 ■高等学校別 ◆県域全体

- ①生徒が自ら主体的に学び「生きる力」をつけることができる
  - 〇全ての生徒に自分を高める学びが提供されている
  - 〇多様な人との出会いやコミュニケーションを通じて深く発見できる学びが提供されている
- ②生徒が多様性を尊重し世界につながり活躍するための力をつけることができる
  - 〇グローバル人材や科学技術人材が育成されている
  - 〇大学等と連携した高度な専門的学びが提供されている
  - 〇ICTを活用した対話的・協働的な学びが実現できている
- ③生徒同士が切磋琢磨し成長できる
  - 〇学校行事や生徒会活動、部活動が活性化している
  - 〇学校でこそ育まれる人と人とのつながりを意識した場が提供されている
- ④場所や時間を選ばない学びができる
  - 〇ICTや外部人材を活用し、所属する学校の枠にとらわれない柔軟で多様な学びが提供されている
- ⑤生徒が社会から学び自らの進路を考えることができる
  - 〇地域の教育資源や人と関わる学びが提供されている
  - 〇産業界と連携した学びが提供されている
- ⑥障害のある生徒とない生徒が互いに学び合い互いを尊重できる
  - 〇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる
  - 〇障害のある生徒に対して必要な支援が提供されている
- ⑦生徒が自らに合った学びを選択できる
  - 〇それぞれの県立高校ならではの魅力や特色が人々に理解されている
  - 〇基礎学力充実、不登校、日本語学習等に対応する学びが提供されている
  - 〇県内どの地域でも様々な学びが提供されている
  - 〇経済的に不利な環境にある生徒への支援が充実している
  - 〇男女の人権や性の多様性が尊重される学校づくりが進んでいる
- ⑧教職員が生徒一人ひとりに愛情をもって向き合いサポートできている
  - 〇授業改善が進むとともに教職員自身の人間性や創造性を高め効果的な教育活動ができている

### 滋賀の県立高等学校づくりのコンセプト

多様な生徒一人ひとりが、「滋賀」という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進める

1 「滋賀」に学ぶ	2 「滋賀」で学ぶ																								
<p><b>滋賀の自然、歴史、文化、人、産業界等を教育資源とした学びの充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇知識・技能を活用し課題を解決する確かな学力の育成</li> <li>〇自立した社会人を育てるキャリア教育の充実</li> <li>〇生徒の学ぶ意欲を育むための多様な学習ニーズ等への対応</li> </ul>	<p><b>魅力と活力ある取組を明確にし、見える化する学校づくり</b></p> <p>①普通科の特色化（全県一区制度継続）（普通科系専門学科を含む）</p> <table border="1"> <tr> <td>普通科</td> <td>普通科</td> <td>コース</td> </tr> <tr> <td>全日制</td> <td>普通科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>29/44校</td> <td>〇〇科</td> <td>類型</td> </tr> <tr> <td></td> <td>普通科系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通科系</td> <td>専門学科</td> <td>系列</td> </tr> <tr> <td>専門学科</td> <td>総合学科</td> <td></td> </tr> </table> <p>②職業系専門学科等の特色化・高度化</p> <table border="1"> <tr> <td>職業系専門学科</td> <td>職業系専門学科</td> <td>類型</td> </tr> <tr> <td>総合学科</td> <td>総合学科</td> <td>系列</td> </tr> </table> <p>③定時制/通信制の役割への対応</p>	普通科	普通科	コース	全日制	普通科		29/44校	〇〇科	類型		普通科系		普通科系	専門学科	系列	専門学科	総合学科		職業系専門学科	職業系専門学科	類型	総合学科	総合学科	系列
普通科	普通科	コース																							
全日制	普通科																								
29/44校	〇〇科	類型																							
	普通科系																								
普通科系	専門学科	系列																							
専門学科	総合学科																								
職業系専門学科	職業系専門学科	類型																							
総合学科	総合学科	系列																							

①と②を支える環境整備

- 〇多様な学びの提供や人とのつながりの創出等、生徒数減少への対応
- 〇多様な学びを実現するICTを活用した教育の提供
- 〇生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成
- 〇持続可能な推進体制の構築

オンラインで学校へ生かす ↓ 魅力発信

### 取組の方向性

- 1 確かな学力の育成
  - 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善 [目指す姿①⑧]
  - 「読み解く力」をもとにした探究的に学ぶ力の育成 [①]
- 2 キャリア教育の充実
  - 小中学校と高校、大学等の連続性を踏まえたキャリア教育の推進 [①⑤]
  - 地元企業など地域の教育資源を活用したキャリア教育の推進 [⑤⑥]
- 3 多様な学習ニーズ等への対応
  - 特別な教育的支援を必要とする生徒への指導の充実 [⑥⑦]
  - 日本語指導が必要な生徒、不登校生徒等への支援の充実 等 [⑦]
- 4 普通科の特色化（普通科系専門学科を含む）
  - 普通科の学科改編やコース、類型の設置 [①②③⑤⑦]
  - グローバル人材、科学技術人材の育成 [②]
  - 普通科系専門学科（音楽・美術等）の学びを継続するための工夫 等 [⑦]
- 5 職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化（農業学科・工業学科・商業学科・家庭学科・総合学科）
  - Society5.0社会に対応した人材育成 [①②③⑤]
  - 地域や産業界と連携した産業教育、産業教育の推進にかかる環境整備 [⑤⑦]
  - 職業系専門学科の魅力伝える方策 [⑦]
- 6 定時制/通信制の役割への対応
  - 多様な生徒の進路保障等を見据えた学びの場の提供 [③⑦]
- 7 生徒数減少への対応
  - これまで以上に地域と連携・協働した学校づくりの推進 [⑤⑦]
  - 多様な学びを実現するための少人数学級の工夫 [⑦]
  - 市町のまちづくりと連携した特徴的な学科等の設置や磨き上げ [⑤⑦]
  - 普通科の学科改編やコース、類型の設置 [①②③⑤⑦]
  - 学校行事、部活動等の学校間連携や地域連携についての研究 [③]
- 8 ICTの活用
  - 全ての県立高校でのICT環境の充実・更新 等 [①④]
  - 教職員のICTを活用するための研修等の充実 [①⑧]
- 9 生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成
  - 優秀で意欲のある人材の確保、研修の充実 [⑥⑧]
- 10 持続可能な推進体制の構築
  - 地域と連携・協働した学校づくりの推進 [①⑤]
  - 働き方改革の推進、経営方針の明確化 [⑦⑧]
- 11 その他
  - モデル校等による取組内容の実践・研究
  - 高等専門学校設置に関する知事部局との連携

### 将来を見据えた整理

- 1 県立高等学校と私学との関係について
  - ◇滋賀の高校教育について、公私が建設的に議論する定期的な協議の場の検討
- 2 県立高等学校の学校規模について
  - ◇規模の大小にはそれぞれメリット・デメリットがあり、それぞれに特徴がある
  - ◇地域の実情に応じた様々な規模の高校において、生徒の力を伸ばす教育の充実
- 3 将来に向けた議論の必要性について
  - ◇県立高校は地域活性化等の多面的な機能をもつ市町等との関係者との議論を進める
  - ◇県が全県的視野から魅力化の方向性を提示→関係者の意見を丁寧に聞き魅力化を図る
- 4 入学者選抜の在り方について
  - ◇時代の変化とともに、より良い選抜方法の課題整理と改善を図る

### 今後の進め方

- 1 基本方針に基づき（仮）魅力化プラン作成（たたき台→意見聴取→案作成）
  - （県教育委員会）
    - 全県的視野からの魅力化の方向性を提示
    - 多様な選択肢の提供
    - 特徴的な学科等の配置
  - （学校）
    - 各校の目指す姿の検討
    - 教職員による主体的な具体化策検討

※必要に応じて（仮）地域別協議会の設置  
（将来を見据えた検討→プランに反映）
- 2（県教育委員会）個別の実施計画作成
  - ・（仮）魅力化プラン案に基づき対象校を選定
- 3（学校）個別の実施計画に基づく具体的検討と経営方針策定・公表
  - ・経営方針（生徒育成方針、教育課程・実施方針、生徒募集方針等）